



授 業 計 画

< 2021年以前の入学生用 >

令和5年度（2023年度）

駒沢看護専門学校

目 次

1. 教育理念	p.1
2. 教育目的・目標	p.2
3. 目指す看護師像	p.3
4. 学年別到達目標	p.4
5. 教科外活動(学校行事)	p.6
6. 教育課程(一表)	p.7
7. 科目運営時間	p.8
8. 教育課程進度表	p.11
9. 科目の授業概要	p.12
10. 授業科目と講義概要	
1) 基礎分野	p.24
2) 専門基礎分野	p.34
3) 基礎看護学	p.54
4) 成人看護学	p.67
5) 老年看護学	p.77
6) 小児看護学	p.84
7) 母性看護学	p.91
8) 精神看護学	p.97
9) 在宅看護論	p.106
10) 看護統合	p.112
11) 臨地実習	p.118
11. 複数教員が担当する科目の配点表	p.133

教 育 理 念

本校は駒澤大学の建学の精神に基づき 信、誠、敬、愛 の校是を掲げ、豊かな情操と透徹した知性によって、行学一如 の実践に努める円満な人間形成を教育の理念とする。

当科は、建学の精神の実践を通して人間形成を目指す。

信 とは、かけがえない真実の自己に対する確認と他の生命の尊厳性を認め、互いに信じあうこと。

誠 とは、至誠の心をもって学業に精励し、正しい自己形成の道を限りなくひたむきに歩むこと。

敬 愛 とは、慈悲の営みであり、主体性を確立しながら共同体として、人間社会の連帯感に目覚め、互いに奉仕しあい慈しみあうこと。

この建学の精神に基づき、将来の看護を担う世代として、多様な健康概念を持ち変化を続けている社会の中で生活をしている人々を、かけがえのない個人として捉え適切な看護を提供する実践者の育成を目指す。

教育目的

仏教的人間観を基盤として、社会における看護の役割を認識し、科学的思考による学習体験をと
おして看護実践能力を修得し、人間の健康と幸福に貢献できる人材を育成する。

教育目標

1. 自らを含めて豊かな人間性と、生命の尊厳を認識し統合的に対象を理解する能力を養う。
2. 様々な場で生活を営んでいる人々の生活及び健康の段階を理解し、対象に応じた科学的根拠に
基づく看護実践能力を養う。
3. 変化する社会の中で保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し、看護者が担うべき役割を
認識してその責務を果たすことができる能力を養う。
4. 専門職としての職業観を高め、主体的に学び続ける基礎的能力を養う。

目指す看護師像

1. 豊かな人間性を持ち、生命の尊厳性を認識できている。
2. 看護師として共感的態度及び倫理観をもって、人を受容できる優しく豊かな人間性が身につく。
3. 職業意識が高まり、看護師として誇りと責任が持て、安全な看護が提供できる基礎が育っている。
4. 自分の意見を表現することを大切にし、相手の意見を聞きとれ学び合う仲間作りができている。
5. 保健・医療・福祉と連携・協働し専門職として臨床実践する基礎力が身に付いている。

学年別到達目標

教育目的

仏教的人間観を基調として社会における看護の役割を認識し、科学的思考による学習体験を通して、看護実践能力を修得し、人間の健康と幸福に貢献できる人材を育成する。

教育目標	1年次到達目標	2年次到達目標	3年次到達目標
自らを含めて豊かな人間性と生命の尊厳を認識し統合的に対象を理解する能力を養う	<p>対象である人間を、成長発達段階から捉えることができる</p> <p>対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する重要性がわかる</p> <p>人間・生命の尊厳について考えることができる</p> <p>他者との関係から自己理解をすることができる</p> <p>看護倫理規定、患者の権利を理解できる</p>	<p>対象を身体的・精神的・社会的側面から理解することができる</p> <p>病態を理解し、健康障害のある対象を理解できる</p> <p>人間・生命を尊厳する姿勢を持つことができる</p> <p>自己理解し、他者を尊重して人間関係を作ることができる</p> <p>コミュニケーション技術を活用し、対象との人間関係を構築できる</p>	<p>対象を統合的に捉え、看護上の問題点を挙げることができる</p> <p>臨地実習を通して生命・死に対する考えや倫理観を表現できる（自分の言葉で）</p> <p>人間・生命を尊厳する姿勢を持つことができる</p> <p>自己理解し、他者を尊重して、人間関係を深めることができる</p>
様々な場で生活を営んでいる人々の生活及び健康の段階を理解し、対象に応じた科学的根拠に基づく看護実践能力を養う	<p>看護の主要概念を理解することができる</p> <p>健康及び健康障害について理解できる</p> <p>看護の役割・機能について理解できる</p> <p>科学的思考で問題解決する方法を考えることができる</p> <p>日常生活援助に必要な知識・技術・態度を習得できる</p> <p>援助技術を実施するための看護過程が展開できる</p> <p>健康障害を持つ人の病態生理が理解できる</p> <p>基本的な生活習慣を整え、良い人間関係を築くことができる</p>	<p>看護の主要概念を理解することができる</p> <p>人間のライフサイクルについて理解し、発達段階に応じた各期の特徴が理解できる</p> <p>健康障害に応じて日常生活の援助を実施できる</p> <p>健康障害に対する治療・処置の対応が理解できる</p> <p>対象に治療・処置別、主要症状別看護を実施できる</p> <p>事例を通して、看護理論に沿った看護過程の展開ができる</p>	<p>あらゆる健康の段階にある対象を統合的に捉え、日常生活援助が実践できる</p> <p>臨地実習を通して生命・死に対する考えや倫理観を表現できる（自分の言葉で）</p> <p>自己理解し、他者を尊重して、人間関係を深めることができる</p> <p>対象を尊重し、対象の気持ちに共感できる感性を培うことができる</p>

教育目標	1年次到達目標	2年次到達目標	3年次到達目標
<p>変化する社会の中で保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し、看護者が担うべき役割を認識して、その責務を果たすことができる能力を養う</p>	<p>保健・医療・福祉チームの役割・機能を理解できる</p>	<p>チームの一員として保健・医療・福祉を取り巻く社会の動向に関心を持つことができる</p>	<p>保健・医療・福祉チームの責務と業務内容が理解でき、看護チームの一員として行動できる</p>
<p>専門職としての職業観を高め、主体的に学び続ける基礎的能力を養う</p>	<p>主体的に学習・研究することの必要性がわかる</p> <p>物事に関心を持ち、何事にも積極的に関わる事ができる</p>	<p>資源を活用し主体的・継続的に学習・研究に取り組むことができる</p> <p>問題意識を持って、何事にも論理的思考を基に解決できる</p>	<p>継続して生涯学習する姿勢を身につけることができる</p> <p>自己を正しく評価し、自己成長できる。判断力を身につける</p> <p>看護実践を通して、自己の看護観を明確にし、表現することができる</p>

教科外活動

	1年生	時間	2年生	時間	3年生	時間
4月					実習ガイダンス	22
			健康診断	4	健康診断	4
			防火避難訓練	4	防火避難訓練	4
5月			実習激励会(学友会)	2	実習激励会(学友会)	2
6月						
7月			スポーツ交流会(学友会)	4		
8月						
9月						
			実習ガイダンス	2		
10月						
11月			実習ガイダンス	2	実習ガイダンス	4
12月					国試対策補講・模試	12
1月					国試対策補講・模試	12
2月	予餞会(学友会)		予餞会(学友会)	2	予餞会(学友会)	2
					卒業生交流会	2
3月					卒業式練習	2
	卒業式		卒業式	2	卒業式	2
通年	単位修得試験		単位修得試験	28	単位修得試験	5
小計				50		73
総計			123	時間		

教育課程

	科目	単位数	時間数			備考
			講義	実習	計	
基礎分野	物理学	1	30		30	
	論理学	1	30		30	
	日本語表現	1	15		15	
	英語 I	1	30		30	
	英語 II	1	30		30	
	情報科学	1	30		30	
	心理学	1	30		30	
	人間関係論	1	30		30	
	宗教哲学	1	30		30	
	倫理学	1	30		30	
	生活科学	1	30		30	
	社会学	1	30		30	
	教育学	1	30		30	
小計	13	375		375		
専門基礎分野	解剖生理学 I	1	15		15	
	解剖生理学 II	1	30		30	
	解剖生理学 III	1	30		30	
	解剖生理学 IV	1	30		30	
	解剖生理学実践	1	30		30	
	生化学	1	30		30	
	臨床栄養学	1	15		15	
	病理学	1	15		15	
	臨床薬理学 I	1	30		30	
	臨床薬理学 II	1	30		30	
	微生物学	1	30		30	
	病態学 I	1	30		30	
	病態学 II	1	30		30	
	病態学 III	1	30		30	
	病態学 IV	1	30		30	
	保健医療論	1	30		30	
	社会福祉 I	1	15		15	
	社会福祉 II	1	15		15	
	関係法規 I	1	15		15	
関係法規 II	1	15		15		
公衆衛生学	1	15		15		
小計	21	510	0	510		
専門分野 I	基礎看護学					
	看護学概論 I	1	30		30	
	看護学概論 II	1	30		30	
	共通基本技術	1	30		30	
	日常生活行動援助技術	1	30		30	
	フィジカルアセスメント技術	1	30		30	
	診療に伴う援助技術	1	30		30	
	看護過程	1	30		30	
	日常生活行動援助技術実践	1	30		30	
	診療に伴う援助技術実践	1	30		30	
	臨床看護総論	1	30		30	
	看護研究	1	30		30	
	臨地実習					
	基礎看護学実習	3		135	135	
小計	14	330	135	465		
専門分野 II	成人看護学					
	成人看護学総論 I	1	15		15	
	成人看護学総論 II	1	30		30	
	成人看護学方法論 I	1	30		30	
	成人看護学方法論 II	1	30		30	
	成人看護学方法論 III	1	30		30	
	成人看護学方法論 IV	1	30		30	
	老年看護学					
	老年看護学総論 I	1	15		15	
	老年看護学総論 II	1	30		30	
	老年看護学方法論 I	1	15		15	
	老年看護学方法論 II	1	30		30	
	老年看護学方法論 III	1	30		30	
	小児看護学					
	小児看護学総論 I	1	15		15	
	小児看護学総論 II	1	30		30	
	小児看護学方法論 I	1	30		30	
	小児看護学方法論 II	1	30		30	
	母性看護学					
	母性看護学総論 I	1	15		15	
	母性看護学総論 II	1	30		30	
	母性看護学方法論 I	1	30		30	
	母性看護学方法論 II	1	30		30	
	精神看護学					
	精神看護学総論 I	1	15		15	
	精神看護学総論 II	1	30		30	
	精神看護学方法論 I	1	30		30	
精神看護学方法論 II	1	30		30		
臨地実習						
成人看護学実習	6		270	270		
老年看護学実習	4		180	180		
小児看護学実習	2		90	90		
母性看護学実習	2		90	90		
精神看護学実習	2		90	90		
小計	39	600	720	1320		
統合分野	在宅看護論					
	在宅看護論総論 I	1	15		15	
	在宅看護論総論 II	1	30		30	
	在宅看護論方法論 I	1	30		30	
	在宅看護論方法論 II	1	30		30	
	看護の統合と実践					
	看護管理	1	30		30	
	安全教育	1	15		15	
	災害看護	1	15		15	
	看護技術統合実践	1	30		30	
	臨地実習					
在宅看護論実習	2		90	90		
看護統合実習	2		90	90		
小計	12	195	180	375		
総計	99	2010	1035	3045		

科目運営時間 1

	科 目	単 位	時 間	学 年		
				1	2	3
基礎分野	物 理 学	1	30	30		
	論 理 学	1	30		30	
	日 本 語 表 現	1	15	15		
	英 語 I	1	30	30		
	英 語 II	1	30		30	
	情 報 科 学	1	30		30	
	心 理 学	1	30	30		
	人 間 関 係 論	1	30	30		
	宗 教 哲 学	1	30	30		
	倫 理 学	1	30	30		
	生 活 科 学	1	30	30		
	社 会 学	1	30	30		
	教 育 学	1	30			30
	小 計	13	375	255	90	30
専門基礎分野	解 剖 生 理 学 I	1	15	15		
	解 剖 生 理 学 II	1	30	30		
	解 剖 生 理 学 III	1	30	30		
	解 剖 生 理 学 IV	1	30	30		
	解 剖 生 理 学 実 践	1	30		30	
	生 化 学	1	30	30		
	臨 床 栄 養 学	1	15	15		
	病 理 学	1	15	15		
	臨 床 薬 理 学 I	1	30	30		
	臨 床 薬 理 学 II	1	30		30	
	微 生 物 学	1	30	30		
	病 態 学 I	1	30	30		
	病 態 学 II	1	30	30		
	病 態 学 III	1	30		30	
	病 態 学 IV	1	30		30	
	保 健 医 療 論	1	30	30		
	社 会 福 祉 I	1	15		15	
	社 会 福 祉 II	1	15		15	
	関 係 法 規 I	1	15		15	
	関 係 法 規 II	1	15		15	
公 衆 衛 生 学	1	15	15			
小 計	21	510	330	180	0	

科目運営時間 2

科 目		単 位	時 間	学 年			
				1	2	3	
専 門 分 野 I	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	30	30		
		看護学概論Ⅱ	1	30	30		
		共通基本技術	1	30	30		
		日常生活行動援助技術	1	30	30		
		フィジカルアセスメント技術	1	30	30		
		診療に伴う援助技術	1	30	30		
		看護過程	1	30	30		
		日常生活行動援助技術実践	1	30	30		
		診療に伴う援助技術実践	1	30	30		
		臨床看護総論	1	30	30		
		看護研究	1	30		30	
小 計		11	330	300	30	0	
専 門 分 野 II	成人看護学	成人看護学総論Ⅰ	1	15	15		
		成人看護学総論Ⅱ	1	30	30		
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30		30	
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30		30	
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30		30	
		成人看護学方法論Ⅳ	1	30		30	
	計		6	165	45	120	0
	老年看護学	老年看護学総論Ⅰ	1	15	15		
		老年看護学総論Ⅱ	1	30	30		
		老年看護学方法論Ⅰ	1	15		15	
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30		30	
		老年看護学方法論Ⅲ	1	30		30	
	計		5	120	45	75	0
	小児看護学	小児看護学総論Ⅰ	1	15	15		
		小児看護学総論Ⅱ	1	30		30	
		小児看護学方法論Ⅰ	1	30		30	
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30		30	
	計		4	105	15	90	0
	母性看護学	母性看護学総論Ⅰ	1	15	15		
		母性看護学総論Ⅱ	1	30		30	
		母性看護学方法論Ⅰ	1	30		30	
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30		30	
	計		4	105	15	90	0
精神看護学	精神看護学総論Ⅰ	1	15	15			
	精神看護学総論Ⅱ	1	30		30		
	精神看護学方法論Ⅰ	1	30		30		
	精神看護学方法論Ⅱ	1	30		30		
計		4	105	15	90	0	
小 計		23	600	135	465	0	
統 合 分 野	在宅看護論	在宅看護論総論Ⅰ	1	15	15		
		在宅看護論総論Ⅱ	1	30		30	
		在宅看護論方法論Ⅰ	1	30		30	
		在宅看護論方法論Ⅱ	1	30		30	
	計		4	105	15	90	0
	看護の統合と実践	看護管理	1	30			30
		安全教育	1	15			15
		災害看護	1	15			15
		看護技術統合実践	1	30			30
	計		4	90	0	0	90
小 計		8	195	15	90	90	
講 義 合 計		76	2010	1035	855	120	

科目運営時間 3

科 目		単 位	時 間	学 年		
				1	2	3
専門分野 I	基礎看護学	基礎看護学実習	3	135	135	
		基礎看護学実習 I	1	45	45	
		基礎看護学実習 II	2	90	90	
		小計	3	135	135	
専門分野 II	成人看護学	成人看護学実習	6	270		270
		成人看護学実習 I	4	180		180
		成人看護学実習 II	2	90		90
		小計	6	270		270
	老年看護学	老年看護学実習	4	180		180
		老年看護学実習 I	2	90		90
		老年看護学実習 II	2	90		90
		小計	4	180		180
	小児看護学	小児看護学実習	2	90		90
		小計	2	90		90
	母性看護学	母性看護学実習	2	90		90
		小計	2	90		90
	精神看護学	精神看護学実習	2	90		90
		小計	2	90		90
統合分野	在宅看護論	在宅看護論実習	2	90		90
		小計	2	90		90
	統合看護の 実践	看護統合実習	2	90		90
		小計	2	90		90
実習合計		23	1035	135	270	630
計		23	1035	135	270	630
教科外活動			249	95	80	58
総 計		23	1284	230	350	688

科目の教育概要

科目の教育概要

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
基礎分野	学	物理学	1	30	身体ケアおよび検査・治療・処置に必要な物理学をわかりやすく解説する。 また、講義・演習をとおして科学的なものの見方考え方を涵養する。	1. 単位 2. 力の合成分解 3. 撃力 4. 作用と反作用 5. 温度・比熱 6. 熱の移動 7. 圧力 8. 血圧 9. 酸素ポンプ 10. 点滴 11. 滅菌 12. pH 13. 濃度 14. 浸透圧 15. 電磁波、放射線
		論理学	1	30	仏教は、「苦しみや悩みはどうして起こるのか」「どうしたらその苦しみや悩みはなくなるのか」ということを論理的に説いていますが、このことは、状況を把握・分析し、適切な方策を考えて実行する「看護」に通ずる面があります。この授業では、そうした仏教の論理的な考え方を学びながら、論理的に筋道を立てて考える力・論理的に順を追って説明する力を養う。	1. 論理とは何か 2. 仏教の教えと論理 3. 四聖諦の論理 4. 縁起の論理 5. 三法印の論理 6. 慈悲の論理 7. 論証と実例 8. 論理とコミュニケーション
	の	日本語表現	1	15	正しい日本語の理解と文章表現を学び論理的思考の基礎を身につける	1. 日本語とは 2. 日本語の位相 3. 表現の実践
		英語 I	1	30	日常にも使える自己紹介、道案内などのほか、看護場面で想定されるもっとも基本的な会話表現と、診療科目、病状、病名などの看護に必要な専門用語を学ぶ	1. 日常英会話 2. 看護場面の基本的な会話表現 3. 看護に必要な専門用語
		英語 II	1	30	英語 I に引き続き医療現場で使われる会話を聞き取り、その内容を理解し、英語 I で習った内容を復習しながら更に新しい医療英語を学ぶ	1. 医療用語の読解 2. 医療現場の英単語
		情報科学	1	30	1. コンピュータの操作方法を理解し、習得する。 2. 情報社会に対応できる基礎知識を学び、医療福祉分野でもかかすことの出来ない情報処理能力を身につける。パソコンの操作ができ、効果的なプレゼンを行うことができるようになる。	1. Windowsの基本操作と起動・終了 2. Wordの基本操作と起動・終了 3. Excelの基本操作と起動・終了 4. PowerPointの基本操作と起動・終了
	と	人間	1	30	心理学とはどのような学問か、歴史と研究方法、また、環境へ適用してゆく上で心はどのように役立っているのか、そして心の仕組みはどのようになっているのかについて、幅広い心理学の中から代表的なものについて学ぶ	1. 心理学とは何か 2. パーソナリティ理論 3. 心理査定 4. 患者理解 5. 発達の心理学 6. 学習の心理学 7. ヒトの欲求
		生活	1	30	看護は、援助を必要とする人々や、他職種との連携・密接な人間関係のうえに成り立っていることを理解し、人間関係の知識や技術を学習する必要がある。また、自己を理解するとともに、自らのストレスコーピングについても身につけることができる	1. アサーション コミュニケーションとは 2. KJ法 3. 様々な心理療法 4. SST 5. インテーク面接 6. 心の病理と健康

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
基礎分野	人間と生活	宗教哲学	1	30	人類の知的遺産としての宗教・哲学思想と向き合いながら、生と死、自と他、人生の意味や目的といった、人間存在にとって根底的な諸問題について考えていきたい。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宗教哲学とは 2. 宗教と価値 3. 霊魂と自我 4. 正義・運命・自由 5. 愛と苦悩 6. 他者と聖なるもの 7. 宗教と歴史
		倫理学	1	30	善悪について、あるいは善悪の基準について、どのように理解すればよいのか。生きることの目的や価値は、どのようなものであるか。倫理学についての基本的な考えかた、さまざまな教説を理解するとともに、現代社会が当面する多様な倫理的課題について学ぶ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理と倫理学 2. 倫理思想 3. 人間 4. 生命 5. 善と悪
		生活科学	1	30	生活を科学的にとらえて理解し、実生活に対応して応用できる力を身につけ、日常生活の援助技術の基礎を生活の観点から理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の概念 2. 生活経営 3. 住生活 4. 衣生活 5. 食生活
		社会学	1	30	社会的存在としての人間理解と人間に影響を及ぼす社会的要因を理解する 最も基礎的な集団である家族を取り上げ体験学習から家族の機能、役割、関係を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学とは何か 2. 現代社会の理解 3. 生活の理解 4. 人と社会の関係 5. 社会問題の理解
		教育学	1	30	教育の本質、機能と教育が人間形成に果たす役割を学習し自己教育につなげる 教育学の意義を確認するとともに、教育現場における今日的な課題について理解を深め、原因を探り、解決方法を考える。将来医療現場で働く受講者に、教育（チーム学校）と医療（医療チーム）が協力し合いながら、学校現場の諸問題を考える。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義 2. 教育学とは 3. 教育学と関連学問 4. 教育学と学校制度 5. 今日的な課題とその対策
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	15	人体の構造、形態、機能を学び、その関連性を捉え人体を系統的に理解できる能力を養う	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖生理学とは 2. 人体の構成 3. 構造と機能からみた人体 4. 生命維持のためのシステム 5. 骨格系・筋肉
		解剖生理学Ⅱ	1	30		<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液・造血器系 2. 循環器系 3. リンパ系 4. 生体の防御機構
		解剖生理学Ⅲ	1	30		<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器系 2. 神経系 3. 感覚器系
		解剖生理学Ⅳ	1	30		<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器系 2. 泌尿器系 3. 内分泌系 4. 生殖器系
		解剖生理学実践	1	30		<ol style="list-style-type: none"> 1. 標本館見学 2. 個人ワーク 3. グループ研究発表

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専 門 基 礎 分 野	人 体 の 構 造 と 機 能	生化学	1	30	人体の構成成分である化学物質の性状とその代謝について知り生命現象のしくみを科学的に理解できる能力を養う	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論一定義 2. 生命の単位としての細胞 3. 生態の成分と機能 4. 物質（栄養学）の代謝 5. ホメオスタシス 6. 遺伝情報の発現 7. 免疫と生体防御 8. 生化学検査
		臨床栄養学	1	15	人間にとっての栄養の意義、食事療法の基本、栄養の基本的な知識と病態や栄養状態に応じた臨床栄養について学ぶ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養の定義と栄養学の目的 2. 栄養学と代謝 3. ライフステージと栄養 4. 栄養状態の判定 5. 治療食の基本と実践
		病理学	1	15	病気の原因と病理的な変化について深め疾病の特徴や進行の過程を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学総論 2. 概念・疾病の原因 3. 基本病変
	疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	臨床薬理学Ⅰ	1	30	薬物の作用機序と生態に及ぼす効果と副作用を学び、薬物の正しい取り扱いと管理について理解する	薬理学総論 <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物治療の意義 2. 薬理の作用、副作用 3. 薬効に影響する因子 4. 薬物中毒 5. 薬物管理
		臨床薬理学Ⅱ	1	30	薬物医療事故の事例から看護師の役割を深める	各論 <ol style="list-style-type: none"> 1. 治療薬の種類 2. 治療薬の作用、副作用 3. 薬物と安全管理事例導入
		微生物学	1	30	微生物の特徴と生態に及ぼす影響を理解し、その疾病や予防、治療の理解に役立つ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学の基礎 2. 病原微生物 3. 感染 4. 免疫
		病態学Ⅰ	1	30	病因と病変の特徴を学び系統別疾患の病態生理と診断・治療検査を学ぶ	病態生理・診断・治療検査 <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器系 2. 循環器系 3. 血液・造血器系 4. 呼吸器系
		病態学Ⅱ	1	30		病態生理・診断・治療検査 <ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器系 2. 腎泌尿器系 3. 代謝・内分泌・アレルギー
		病態学Ⅲ	1	30		病態生理・診断・治療検査 <ol style="list-style-type: none"> 1. 外科的治療の実際 2. 救急処置法 3. 女性生殖器系 4. 放射線療法
		病態学Ⅳ	1	30		病態生理・診断・治療検査 <ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚器系（眼） 2. 感覚器系（耳鼻） 3. 感覚器系（皮膚） 4. 歯科・口腔系 5. 脳神経系

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専 門 基 礎 分 野	健 康 支 援 と 社 会 保 障 制 度	保健医療論	1	30	保健・医療・福祉の統合した概念を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉の概要 2. 人口と保健統計 3. 衛生行政 4. 疾病予防と疫学 5. 保健医療活動の実際
		社会福祉Ⅰ	1	15	社会福祉の意義と概念を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の定義と展開 2. 福祉と医療の協同と役割 3. 社会福祉の価値前提 4. 社会福祉援助技術と環境調整 5. 社会構造の現状と課題 6. 日本の社会的課題と方向性 7. 家族構成の変化と労働
		社会福祉Ⅱ	1	15	社会福祉制度と社会保障制度について学び、保健医療福祉の関連を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 1. 社会保障と地域福祉 2. 公的扶助論 3. 社会福祉援助技術論 4. 高齢者福祉論 5. 介護福祉論 6. 子ども家庭福祉論 7. 障害者福祉論
		関係法規Ⅰ	1	15	保健医療福祉に関する法規を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 1. 法学の基礎 2. 医療従事者に関する法律 3. 医療に関する法律 4. 薬務に関する法律
		関係法規Ⅱ	1	15	看護業務に関連の深い関係法規を学び、看護師の業務や責任について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生に関する法律 2. 社会保険と社会福祉に関する法律 3. その他看護業務に関する法律 4. 医療事故と看護師の法的責任
		公衆衛生学	1	15	公衆衛生活動のもつ特性について理解し、公衆衛生活動を展開するための基礎知識を身につける	<ul style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生学の概要 2. 人口と保健統計 3. 衛生行政 4. 疾病予防と疫学 5. 公衆衛生活動の実際

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専 門 分 野 I	基 礎 看 護 学	看護学概論Ⅰ	1	30	看護の概念をとらえ、看護の位置付けと役割の重要性を学ぶ	1. 看護の概念 2. 健康と看護 3. 看護の対象 4. 看護の機能と役割
		看護学概論Ⅱ	1	30	看護の理論を理解する。 看護倫理に関する基本的知識を学ぶ 広がる看護の活動領域を学ぶ	1. 看護理論 2. 看護倫理 3. 国際看護 4. 災害看護
		共通基本技術	1	30	さまざまな対象の、あらゆる看護実践の基本となる技術を理論的、実践的知識を踏まえながら学ぶ	1. 看護技術の概念 2. 環境調整 (ベッドメイキング) 3. 安全管理と事故防止 (ボテイメカクス) 4. 観察・記録 5. 感染予防 6. 教育的かかわりの技術 7. コミュニケーション
		日常生活行動 援助技術	1	30	対象者のセルフケア能力と安全・安楽に配慮した日常生活援助技術を学ぶ	1. 日常生活援助の意義 2. 活動・休息 (体位変換・移乗・移送) 3. 衣生活の援助 4. 食生活の援助 5. 清潔保持の援助 6. 排泄の援助 7. 危篤・終末期・死亡時の援助
		フィジカル アセスメント技術	1	30	看護におけるフィジカルアセスメントの意義と目的がわかり、必要とされる技術を習得する	1. バイタルサイン 2. フィジカルアセスメント
		診療に伴う援助技術	1	30	対象が、安全・安楽に診療を受けられるために必要な知識と技術を学ぶ	1. 診療に伴う援助技術 2. 検査の看護 3. 呼吸管理 (酸素吸入・吸引) 4. 経管栄養法 5. 浣腸、導尿、膀胱洗浄 6. 膀胱留置カテーテル 7. 与薬 (直町内与薬演習含む) 皮内/皮下/筋肉/静脈内注射 内服薬・外用薬
		看護過程	1	30	看護の目的を達成するために、対象の健康問題を判断し、解決するための方法論を学ぶ	1. 看護過程の概要 2. ヘンダーソンの看護論に基づいた事例の看護過程展開
		日常生活行動 援助技術実践	1	30	既習の知識、技術を活用し根拠に基づき、事例に応じた看護技術を倫理的態度で、安全・安楽に実践できる能力を修得する	1. 看護技術演習 活動・休息 (体位変換、移乗、移送、電法) 衣生活の援助 食生活の援助 清潔保持の援助 排泄の援助 バイタルサイン
		診療に伴う 援助技術実践	1	30	既習の知識、技術を活用し根拠に基づき、事例に応じた看護技術を倫理的態度で、安全・安楽に実践できる能力を修得する	1. 看護技術演習 検査の看護 (静脈内採血)

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門分野 I	基礎看護学	臨床看護総論	1	30	各健康レベルにある対象・家族の理解をし、そのレベルを理解しながら看護実践ができる	1. 健康障害のある対象 家族の理解 2. 健康レベル別看護 3. 症状別看護 4. 治療別看護
		看護研究	1	30	看護の問題を科学的に解決できるように研究プロセスおよび研究態度について学ぶ	1. 看護研究の概要 2. 文献検索と批判的な論文の読み方 3. 文献のクリテーク 4. 研究の実際
専門分野 II	成人看護学	成人看護学総論 I	1	15	成人期にある対象の特徴を学び、看護の役割を果たすために必要な基礎知識を理解する	1. 成人看護の機能と役割 2. ライフサイクルから見た成人期の特徴 3. 成人の生活と役割・特徴
		成人看護学総論 II	1	30	成人期にある対象の健康問題を理解し、健康の保持増進・疾病予防のための対策と看護実践に必要な理論を学ぶ	1. 身体機能の特徴と変調に合わせた看護 2. 成人期のある対象の多様な健康観 3. 成人期に見られる健康問題と対策 4. 変化する医療・生活環境に応じた看護 5. 成人看護で活用する理論
		成人看護学方法論 I	1	30	成人期にある対象の持つ多様な健康課題を理解し、急性期・回復期にある対象および家族に必要な看護を学ぶ 循環器系、消化器系、運動器系、脳神経系の看護を学ぶ	1. 急性期にある患者・家族の特性と看護 2. 回復期にある患者・家族の特性と看護 3. リハビリテーションを必要とする患者・家族の看護 4. 消化機能障害をもつ患者の看護 5. 循環機能障害をもつ患者の看護 6. 運動機能障害をもつ患者の看護 7. 脳・神経機能障害をもつ患者の看護
		成人看護学方法論 II	1	30	成人期にある対象のもつ多様な健康課題を理解し、慢性期・終末期にある対象および家族に必要な看護を学ぶ 呼吸器系、腎・泌尿器系、代謝・内分泌系、アレルギー系、血液・造血器系の看護を学ぶ	1. 慢性期にある患者・家族の特性と看護 2. 生涯コントロールを必要とする患者の看護 3. 呼吸機能障害をもつ患者の看護 4. 排泄機能障害をもつ患者の看護 5. 内分泌・代謝機能障害をもつ患者の看護 6. 身体防御機能障害をもつ患者の看護 7. 終末期にある患者の看護 8. 看護過程

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専 門 分 野 II	成人看護学	成人看護学方法論Ⅲ	1	30	<p>生命の危機的状況および周術期にある対象と家族に必要な看護を実践するための基礎的知識を学ぶ</p> <p>救命救急、集中治療・周術期における看護を学ぶ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急患者および家族、救急看護の特徴 2. 救急処置 3. 集中治療を受ける患者および家族の特徴と看護 4. 周術期にある患者および家族の特徴と看護 (ア) (手術前・中・後の看護) 5. 侵襲的治療を受ける患者の看護
		成人看護学方法論Ⅳ	1	30	<p>成人看護に必要な看護技術の基本を理解し、安全安楽に実施するための知識・技術・態度を修得する</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 創傷管理 2. 酸素療法 3. 吸引 4. 包帯法 5. 輸液管理 6. 穿刺・血糖測定
	老人看護学	老年看護学総論Ⅰ	1	15	<p>老年期にある対象の特徴を理解し、老人看護の機能と役割を学ぶ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の理解 2. 加齢に伴う変化 3. 高齢者のアセスメント 4. 老年看護の特徴 5. 老年看護の機能・役割
		老年看護学総論Ⅱ	1	30	<p>高齢社会における老人保健の意義と老人保健対策の現状と看護の果たす役割を学ぶ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢社会の統計的輪郭 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 3. 老年看護の倫理 4. 高齢者模擬体験演習
		老年看護学方法論Ⅰ	1	15	<p>老年の健康障害の特徴と老年期に多い健康障害を学ぶ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期に多い健康障害の特徴 2. 高齢者に特有な症候・疾患・障害 3. 検査治療を受ける高齢者への看護
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30	<p>高齢者に特有な生活援助技術を学ぶ</p> <p>老年期の健康課題に対する生活上の問題を判断し、解決するために理論的知識を用いて問題解決思考の方法を習得する</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護の基本技術 2. 老年看護の援助技術 3. 看護過程の展開 4. 演習(食事・排泄・移動)
		老年看護学方法論Ⅲ	1	30	<p>健康障害の特徴と健康状態に応じ、高齢者とその家族に対する看護を実践するための知識、技術、態度を養う</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体可動性に障害のある高齢者への看護 2. 認知機能障害のある高齢者への看護 3. コミュニケーション障害のある高齢者への看護 4. 終末期の高齢者への看護

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専 門 分 野 II	小 児 看 護 学	小児看護学総論Ⅰ	1	1 5	小児看護の変遷を知り、小児看護の 理念・目的を理解する 小児各期の特徴を学び小児看護の機 能と役割を理解する	1. 小児看護の目ざすところ 2. 小児と家族の諸統計 3. 小児看護の変遷 4. 小児看護における倫理 5. 小児看護の課題
		小児看護学総論Ⅱ	1	3 0	小児保健統計をふまえ、子どもを保護する法律や保健対策を理解する 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解する 小児各期の特徴と成長発達を理解し、小児看護の対象と機能・役割を理解する	1. 小児の成長・発達 2. 小児の栄養 3. 小児各期の特徴と生活 4. 家族の特徴とアセスメント 5. 小児と家族を取り巻く社会
		小児看護学方法論Ⅰ	1	3 0	小児の健康障害の特徴と小児期に多い健康障害を学ぶ	1. 小児期に多い健康障害の病態生理、経過、治療
		小児看護学方法論Ⅱ	1	3 0	健康障害を持つ小児、保護者への影響を理解し健康を障害された小児とその家族に必要な看護を実践するための知識、技術、態度を養う	1. 健康を障害された小児 2. 小児の状況の特徴づけられる看護 3. 小児における疾病の経過と看護 4. 症状を示す小児の看護 5. 小児のアセスメント 6. 治療・処置・看護 7. 看護過程の展開
	母 性 看 護 学	母性看護学総論Ⅰ	1	1 5	人としての種族保存あるいは生殖の意義を理解するとともに、母性の概念及び母性の特性を把握し、母性看護の目的を理解する	1. セクシュアリティ 2. リプロダクティブヘルス/ライツ 3. ヘルスプロモーション 4. 母性の身体的特性 5. 母性の心理・社会的特性 6. 母性看護における倫理
		母性看護学総論Ⅱ	1	3 0	ライフサイクル各期の母性としての身体的、心理的、社会的特徴を学び、保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解する	1. 母子保健の動向と対策 2. 母子を取り巻く社会の動き 3. ライフサイクル各期の特徴と健康問題
		母性看護学方法論Ⅰ	1	3 0	妊娠、分娩、産褥及び新生児の特徴を理解し、それぞれの対象とその家族に必要な看護を実践するための知識、技術、態度を養う	1. 妊娠・分娩・産褥の生理 2. 妊娠期の看護 3. 分娩期の看護 4. 産褥期の看護 5. 新生児の看護 6. 母性の看護技術
		母性看護学方法論Ⅱ	1	3 0	ハイリスク妊娠、異常分娩・産褥及び新生児の特徴を理解し、それぞれの対象とその家族に必要な看護を実践するための知識、技術、態度を身につける 女性生殖器患者の特徴を理解し、健康障害、及び対象とその家族に必要な看護を学ぶ	1. リプロダクティブケア 2. 妊娠の異常 3. 分娩の異常 4. 産褥の異常 5. 看護過程の展開

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専 門 分 野 II	精 神 看 護 学	精神看護学総論Ⅰ	1	1 5	精神看護の意義・対象・役割機能を理解し、精神の危機的状況や障害を持つ人とその家族に必要な基礎的知識を学ぶ	1. 精神看護の目的・目標 2. 精神看護の対象 3. 精神看護の役割・機能
		精神看護学総論Ⅱ	1	3 0	ライフサイクルにおける心の健康と成長発達について学び、保健・医療・福祉チームにおける精神保健活動について学ぶ	1. 精神保健の概念 2. 成長・発達と危機 3. 現代社会における精神保健 4. 精神保健活動の実際と今後の課題
		精神看護学方法論Ⅰ	1	3 0	精神神経障害の特徴と主な精神疾患の原因、診断、治療について理解する	1. 精神障害の理解 2. 主な治療 3. 精神医学と他領域との連携 4. 情報交換の必要性
		精神看護学方法論Ⅱ	1	3 0	主な精神障害の特徴と精神疾患について理解し、患者・看護者関係の成立・発展の必要性を知る また、精神活動に障害のある個人とその家族への援助に必要な看護を実践する知識、技術、態度を身につける	1. 精神障害患者の看護 2. 主な精神症状と問題行動への看護 3. 主な精神疾患への看護 4. 主な精神治療の看護 5. 精神障害をもつ患者の家族への看護 6. 看護過程の展開
統 合 分 野	在 宅 看 護 論	在宅看護論総論Ⅰ	1	1 5	統合看護の視点で在宅看護の対象及びその家族の特徴を理解し看護の機能・役割を学ぶ	1. 在宅の概念 2. 地域における在宅看護活動 3. 在宅看護と制度 4. 在宅療養者と家族 5. 在宅看護の特徴
		在宅看護論総論Ⅱ	1	3 0	在宅で療養する対象及びその介護者の状況に応じた看護の展開が理解できる 在宅看護の訪問技術を学ぶ	1. 在宅看護活動の実際 2. 在宅看護の展開 3. 訪問技術
		在宅看護論方法論Ⅰ	1	3 0	在宅で療養する対象及びその介護者を支援する看護実践のために必要な、在宅に対応する日常生活援助技術を修得する	1. 在宅療養者の日常生活援助 2. 訪問看護の展開 3. 在宅療養者の症状・状態別看護
		在宅看護論方法論Ⅱ	1	3 0	在宅での医療技術に伴う看護の必要性を理解し、安全性や経済性を考慮した看護技術を修得する	1. 在宅における医療処置援助技術 ・在宅酸素療法 ・人工呼吸器 ・ストーマケア ・創傷処置 ・中心静脈栄養法 ・疼痛コントロール ・経管栄養法 ・膀胱留置カテーテル 2. 演習 3. 看護過程の展開

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
統合分野	看護の統合と実践	看護管理	1	30	看護管理に必要な基礎知識と方法を学ぶ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の意義 2. 専門職としての管理 3. 看護管理システム 4. 組織 5. 看護におけるマネジメント
		安全教育	1	15	看護場面・医療場に潜む危険因子と要因を幅広い視点から分析でき、安全で確実な技術を実施することの重要性を理解する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療看護におけるリスクマネジメント 2. 看護職の責任と法的責任 3. 看護・医療事故予防と看護実践 4. K Y T 演習
		災害看護	1	15	<p>災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら</p> <p>人々の生命や生活に影響を及ぼす事を理解し、さらに、社会における看護の役割を果たすために必要な看護活動を学習する</p> <p>机上シミュレーションや訓練を通して、災害時の救護活動に必要な判断力、基本的な救護技術、心構えと態度及び行動力を修得する</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害及び災害看護に関する基礎的知識 2. 災害発生時の社会の対応やしきみ 3. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響 4. 災害時に看護が果たす役割と看護支援活動 5. 演習
		看護技術統合実践	1	30	既習の知識技術を統合し、対象の状態に応じて安全安楽な基礎看護技術を修得する	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例提示 <ul style="list-style-type: none"> ・事例患者を理解できる ・事例から必要な技術項目を抽出できる ・必要な看護技術を計画・実施できる。 ・看護実践能力を評価し自己の課題を明確にすることができる

基礎分野

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
論理学	1	30	2年後期	合同 クラス別	林寺 正俊 実務経験あり(大学准教授)

科目のねらい

仏教は、「苦しみや悩みはどのようにして起こるのか」「どうしたらその苦しみや悩みはなくなるのか」ということを論理的に説き、そのうえで苦しみや悩みをなくすための実践方法を説くが、このことは、状況を把握・分析し、適切な方策を考えて実施する「看護」に通ずる面がある。

この授業では、仏教の教えの論理的な面について学ぶとともに、思考実験・グループ討論・推論の練習を行なうことにより、論理的に思考する力・論理的に説明（表現）する力の習得をめざす。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習内容
2	論理(学)とは何か	板書と配布プリントをもとに、各単元の内容を学ぶ。	講義・演習
2	論理と倫理		
2	仏教の教えと論理－四諦(1)		
2	仏教の教えと論理－四諦(2)		
2	仏教の教えと論理－縁起		
2	仏教の教えと論理－慈悲		
2	仏教における看護の論理		
2	仏教における看護の事例		
2	思考実験とグループ討論(1)		
2	思考実験とグループ討論(2)		
2	思考実験とグループ討論(3)		
2	推論(1)－演繹法		
2	推論(2)－仏教論理の三支作法		
2	推論(3)－帰納法		
2	総括		
1	単位修得認定試験		

評価方法 : 授業で提出する出席票(30%)と筆記試験(70%)。

教科書 : 教科書は使わず、適宜プリントを配布する。

参考文献 : なし。

学生のみなさんへ : 看護師として医療現場でいろいろな人と接することになるみなさんにとって、コミュニケーションの力は大事です。この授業を通して、論理的に筋道を立てて考える力、自分の考えを的確に伝える力、相手の考えを理解する力を養っていきましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
英語Ⅱ	1	30	2年前期	合同 クラス別	鳴海 恭子 実務経験あり(英語講師)

科目のねらい

英語Ⅰに引き続き医療現場で使われる会話を聞き取り、その内容を理解し、英語Ⅰで習った内容を復習しながら更に新しい医療英語を学びます。

授業進度と内容

回	時間	項目	学習内容	学習方法
1	2	Pre-Unit	人と知り合い紹介しあう	会話主体
2	2	Unit 1	診療科目	<ul style="list-style-type: none"> ・医療現場で使われる英単語を導入、次回小テスト。 ・原則毎回医療現場で使われる会話をディクテーション(聞き書き)し、内容を理解する。 ・モデルの会話を使ってペアで会話練習。 ☆協力し合って楽しく学べるようペアやグループでの練習をできるだけ多く取り入れます。
3	2	Unit 2	受診申込書	
4	2	Unit 3	身体各部位名	
5	2	Unit 4	病名、症状	
6	2	Review	Unit 1～4の復習	
7	2	Unit 5	日課	
8	2	Unit 6	医療用具	
9	2	Unit7	用具の置き場所	
10	2	Unit 8	病院案内	
11	2	Review	Unit 5～8の復習	
12	2	Unit 9	道案内	
13	2	Unit 10	患者と話す	
14	2	Unit 11	病歴を尋ねる	
15	2	Unit 12	確認の表現	

評価方法 : 診療科名、職業名、身体各部名、症状に関する短い会話、医療器具、位置を表す表現など10回程度の小テストの合計で評価します。

教科書 : ホスピタル・イングリッシュ Vital Signs 南雲堂

学生のみなさんへ : ☆大変残念な事に英語は使わないと『覚えたはずなのに』忘れてしまいます。あきらめずに去年習ったことを復習しつつ、医療現場に必要な英語を身につけるべく励みましょう。

☆ 語学だけでなく、学力も教養も持てる物が多いほどそれを使って社会に活かし、貢献する事が多くなります。貴重な学ぶ機会を最大限に生かして下さい。積極的な発言、質問を歓迎します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
情報科学	1	30	2年前期	合同	平間 嘉 実務経験あり (第一種情報処理技術者)

科目のねらい

1. コンピュータの操作方法を理解し、ワープロ表計算、プレゼンテーション等のアプリケーションソフトの操作、グラフ作成や写真加工等の操作方法を習得する。
2. 情報社会に対応できる基礎知識を学び、医療福祉分野でもかかすことの出来ない情報処理能力を身につける。
パソコンの操作ができ、見栄えの良いレポート等を作成できるようになる。また、プレゼンテーションツールとしてパソコンを使用し、効果的なプレゼンを行うことが出来るようになる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4	Windows 実習	Windowsの基本操作 Windowsの基本的な操作や各種設定方法を習得する。	講義
4	Word実習	Wordの基本操作 日本語の入力・変換の方法、各種報告やハガキ、案内文書の作成方法を習得する。	講義
4	Excel実習	Excelの基本操作 文字・数値・計算式の入力方法、計算を伴う報告等の作成方法を習得する。	講義
4	PowerPoint実習	PowerPointの基本操作 スライドの作成方法やプレゼンテーション時の効果設定方法を習得する。	講義
4	Windowsの操作方法をマスターする	Windowsの起動・終了 マウス・キーボードの操作 Windowsの操作	講義
4	Wordの操作方法をマスターする	Wordの起動・終了 日本語の入力・変換、書式の設定 表の作成、画像・イラストの挿入 印刷設定 保存・読み込み	講義
3	Excelの操作方法をマスターする	Excelの起動・終了 文字・数値・数式の入力 書式の設定、印刷設定 保存、読み込み、グラフの作成	講義
3	PowerPoint操作方法をマスターする	PowerPointの起動・終了 スライドの作成、効果の設定 プレゼンツールの使い方	講義
1	単位修得認定試験		

評価方法：単位修得認定試験用提出物にて評価する

教科書：ワード2016、エクセル2016（学研）

参考文献：

学生のみなさんへ： パソコンはとても便利な道具です。携帯電話より操作は簡単です

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
教育学	1	30	3年前後期	合同	杉浦 勉 実務経験あり(大学教育学部講師)

科目のねらい

教育学の意義を確認するとともに、教育現場における今日的な課題について理解を深める。
また、それらの課題についてグループワークなどを通して、原因を探り、解決方法を考える。

将来医療現場で働く受講者に、教育(チーム学校)と医療(医療チーム)が協力し合いながら、
学校現場の諸問題を考える講義としたい。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	教育の意義	1. 教育の意義	講 義
2	教育学とは	2. 教育学とは	
2	教育学と関連学問	3. 教育学と関連学問①(教育史など)	
2		4. 教育学と関連学問②(教育心理学など)	
2	教育学と学校制度	5. 教育学と学校制度	
2	今日的な課題とその 対策	6. 教育学「今日的な課題とその対策① いじめ」	
2		7. 教育学「今日的な課題とその対策② 不登校」	
2		8. 教育学「今日的な課題とその対策③ 子どもたちの心と体」	
2		9. 教育学「今日的な課題とその対策④ 体罰」	
2		10. 教育学「今日的な課題とその対策⑤ 児童生徒理解」	
2		11. 教育学「今日的な課題とその対策⑥ 教育格差」	
2		12. 教育学「今日的な課題とその対策⑦ 子どもの貧困」	
2		13. 教育学「今日的な課題とその対策⑧ 子どもの学力と体力」	
2		14. 教育学「今日的な課題とその対策⑨ 子どもの命」	
2	まとめ 単位修得認定試験	15. まとめ及び試験	

評価方法 : 講義に使用したワークシートの提出(10回×8点=80点)及び論述試験(20点)

教科書 : 資料を毎回配布する。

参考文献 : 特にテキストは指定しないが、必要に応じて文献及び資料を紹介する

学生のみなさんへ : 教育学を教育・研究する者としての基本的な姿勢は、学ぶ者と教える者の両者の立場の相互理解と協調である。授業を通して、お互いに理解し、授業の中でも実践的に深めたい。

專門基礎分野

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
解剖生理学実践	1	30	2年前期	クラス別	中村園美、吉野悦子 実務経験あり(看護師)

科目のねらい

身体を構成する各臓器の構造と仕組みがわかり、人間の生命活動を営むメカニズムの理解が深める。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
30		1. 呼吸 1) 外呼吸 2) 内呼吸 2. 循環・血液 1) 心臓の働き 心臓から肺・脳への循環の仕組み 2) 心臓から下の臓器への循環の仕組み 3) 成人の血液の量、血液の種類・働き等 3. 消化器・肝臓 1) 上部消化管(食道・胃)、肝臓の働き 2) 咀嚼・嚥下と消化・吸収 3) 消化液の働き 4. 排泄(大腸・直腸・肛門)、泌尿器 1) 排便の仕組み 2) 排尿の仕組み 5. 脊髄・脳 1) 脊髄の構造と働き 2) 脳の構造と働き 6. 骨格 1) 骨格系の構造と仕組み 2) 関節の働き	演習(GW)と プレゼンテーション

評価方法 : ①担当したテーマのレポートとプレゼンテーション ②プレゼンテーション参加度

参考文献 : 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院

ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
臨床薬理学Ⅱ	1	30	2年前期	クラス別	宇野 健一 実務経験あり (薬剤師)

科目のねらい

薬物医療事故の事例から看護師の役割を深める。

薬理学とはどういうものか、特に薬剤師の立場から臨床に則した実践的な薬理を皆さんが

実務に役立てることができることを目標として、テキストに沿って解説します。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4	呼吸器系作用薬	1. 気管支喘息 2. 呼吸器感染症等による激しい咳、痰 3. 慢性呼吸不全 4. 睡眠時無呼吸症候群 5. びまん性汎細気管支炎 上記の基礎知識と治療薬 看護上の留意点	講義
4	消化器系作用薬	1. 胃炎、胃、十二指腸潰瘍 2. 食欲不振、消化不良 3. 嘔吐 4. 便秘、下痢 上記の基礎知識と治療薬 看護上の留意点	
8	ホルモン系・生殖器系作用薬	1. ホルモン系作用薬 糖尿病 甲状腺機能亢進症 甲状腺機能低下症骨粗鬆症 2. 生殖器系作用 前立腺肥大症 陣痛誘発 (微弱陣痛) 不妊症 受胎調整 (経口避妊薬) 上記の基礎知識と治療薬 看護上の留意点	
6	抗感染症薬	1. 抗感染症薬 2. 消毒薬 上記の基礎知識と治療薬 看護上の留意点	
4	抗悪性腫瘍薬	看護上の留意点	
2	漢方薬	看護上の留意点	
2	まとめ (復習)	薬の取扱いと医療事故	講義 プレゼンテーション
1	単位修得認定試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : わかりやすい薬理学 (第3版) ニューヴェルヒロカワ

参考文献 : 検討中

学生のみなさんへ : 薬理学の苦手な看護師さんが多くいるとききます。だけど看護業務の中から薬をきりはなすことはできません。また重大な医療事故の中には病院スタッフの薬の取扱いの間違いより発生しているものもたくさんあります。そのためにも、薬につよい看護師を目指して頂ければと考えています。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師(実務経験あり)
病態学Ⅲ	1	30	2年前期	クラス別	鎌田理(医師)(外科的治療) 学外講師(救急救命士)(救急処置法) 金上宣夫(医師)(女性生殖器) 鈴木祐介(診療放射線技師)(放射線)

科目のねらい

手術療法、麻酔療法、放射線療法について治療の目的、優位性を学ぶ。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
6	外科的治療の実際	1. 外科患者の病態の基礎 1) 手術侵襲と生体の反応 2) 炎症 3) 感染症 4) 腫瘍の診断と治療 5) 外傷とショック 2. 創傷管理、縫合と抜糸 3. 麻酔法 1) 麻酔とは 2) 麻酔の種類 3) 術前・術中・術後管理	講義 プレゼンテーション
4	救急処置法	1. 救急処置の範囲と対象 2. 救急処置法の原則と実際 (BLS) 3. 演習	講義 演習
10	女性生殖器疾患の病態と検査治療処置	1. 性分化疾患 2. 外陰の疾患 3. 膣の疾患 4. 感染症疾患(性感染症) 5. 骨盤内炎症性疾患 6. 子宮の疾患(子宮がん、子宮筋腫、子宮内膜症、絨毛性疾患) 7. 卵管の疾患 8. 卵巣の疾患(良性腫瘍、悪性腫瘍) 9. 機能的疾患(月経異常、更年期障害、不妊症)	講義 プレゼンテーション
10	放射線療法	1. 放射線の種類・性質: 人体に与える影響と障害、被爆防護について 2. CT検査: CTの基礎、単純CTと造影CT 造影剤について(副作用と造影剤の予備テスト) 3. RI検査: 放射線同位元素について、RI検査の被爆、放射性医薬品、RI検査室の管理 4. MRI検査: MRIの安全面に関する事項、検査の内容、禁忌事項 5. TVレントゲンの検査	講義 プレゼンテーション
1	単位修得認定試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論・各論 臨床放射線医学 医学書院
系統看護学講座 成人看護学⑨ 医学書院

参考文献 : 必要時資料配布します

学生のみなさんへ : 楽しく学習しましょう。たくさんの質問を期待します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
病態学IV	1	30	2年前期	クラス別	伊藤理恵(認定看護師)(皮膚科) 藤原美秋(医師)(耳鼻科) 加藤雅史(医師)(眼科) 千徳敏克(歯科医師)(歯科) 石崎努(医師)・伊藤和則(医師)(脳神経)

科目のねらい

感覚器疾患との病態と検査治療について学ぶ。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
6	皮膚科疾患の病態と 検査治療処置	皮膚反応テスト、スキンケア 薬物・ステロイド療法	講義 スライド
4	耳鼻科疾患の病態と 検査治療処置	外・中・内耳炎、メニエール病、アレルギー、 咽頭・喉頭がん、ポリプ吸入、減感作、 ステロイド、手術療法など	講義 スライド
6	眼科疾患の病態と 検査治療処置	流行性結膜炎、近・遠・弱視、眼底出血、白内障、 緑内障、網膜症、網膜剥離、薬物・点眼・レーザー・ 手術療法、光凝固、眼鏡など	講義
4	歯科疾患の病態と 検査治療処置	齲歯、歯髄炎、歯周炎、口内炎、口腔癌、 補綴の種類、適応、義歯の取扱、 小児の矯正・予防歯科	講義 配布資料
10	脳神経疾患の病態と 検査治療処置	1. 脳神経の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査、診断と治療・処置 診断と診療の流れ、検査・治療 4. 疾患の理解 脳疾患・脊髄疾患・末梢神経障害・脳神経の 感染症	講義 プレゼンテーション
1	単位修得認定試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 成人看護学 (7) 脳神経 (12) 皮膚 (17) 眼
(14) 耳鼻・咽喉 (15) 歯・口腔 医学書院

参考文献 : 参考文献 : その都度紹介します

学生のみなさんへ : どんどん質問してください。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
社会福祉 I	1	15	2年前期	クラス別	澤 伊三男 実務経験あり(社会福祉士)

科目のねらい

社会福祉の理念と意義を理解するとともに、社会福祉援助技術を中心に支援理論を学ぶ。
様々な問題提起を通して、現在日本の社会福祉の現状や課題並びにあるべき姿について学ぶ。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	福祉の定義と展開	社会福祉の定義と理念、歴史 事例を通して福祉の役割を理解する 福祉の意義と必要な視点	講 義
2	福祉と医療の協同と役割	福祉の範囲と専門職、 医療と福祉の接点と協同	
2	社会福祉の価値前提	社会福祉の価値前提と支援の原則	
2	社会福祉援助技術と環境調整	ソーシャルワーク理論を中心に相談援助及び環境調整のあり方	
2	社会構造の現状と課題	我が国の社会構造の変化と少子高齢化の課題	
2	日本の社会的課題と方向性	日本社会の抱える福祉的課題と対応	
2	家族構成の変化と労働	世帯構成及び生活環境の急激な変化と家族	演 習
1	単位修得認定試験	期末試験	

評価方法 : 期末試験

教科書 : 特になし。授業開始時にレジュメを配布し、それに従い展開する

参考文献 : 社会福祉士養成講座編集委員会編「現代社会と福祉」中央法規出版

澤 伊三男、渋谷 哲他編「ソーシャルワーク実践事例集 I・II」明石書店

学生のみなさんへ : 社会福祉とは、「共生」の理念に基づいた共に支え合うことが原点です。

基盤となるものは、「利用者支援」であり、「人権擁護」の視点が求められています。共有の現場での実践を目指した講義を心掛けますので、展開される様々な事例を通して社会福祉を理解していきましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
社会福祉Ⅱ	1	15	2年後期	クラス別	澤 伊三男 実務経験あり(社会福祉士)

科目のねらい

社会福祉の分野における専門的な単元を理解し、具体的な内容についての理解を深めていく。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	社会保障と地域福祉	社会保障の概念と制度 地域福祉の展開と位置付	講 義
2	公的扶助論	現代と貧困 生活保護制度と低所得者福祉	
2	社会福祉援助技術論	援助技術の方法論と具体的展開	
2	高齢者福祉論	高齢者の現状と福祉制度	
2	介護福祉論	介護の定義とその内容	
2	子ども家庭福祉論	家族構造の変化とDV・児童虐待への対応	
2	障害者福祉論	障がい者への支援と課題	
1	単位修得認定試験	期末試験	

評価方法：筆記試験

教科書：特になし。授業開始時にレジュメを配布し、それに従い展開する

参考文献：社会福祉士養成講座編集委員会編「現代社会と福祉」中央法規出版

澤 伊三男、渋谷 哲他編「ソーシャルワーク実践事例集Ⅰ・Ⅱ」明石書店

学生のみなさんへ：分野別に学ぶことによって、社会福祉を皆さんがどのように理解し考えているか、意見交換をしながら講義を進めていきたいと思ひます。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
関係法規Ⅰ	1	15	2年前期	クラス別	小野田 充宏 実務経験あり(弁護士)

科目のねらい

看護師が関係する法律を学習するための基礎として、この授業を位置づけている。この授業では法の基礎知識および憲法、刑法、民法等の基本的な法律について学ぶことを通して、看護の対象者の人格の尊厳を尊重することの意味を検討する機会としたい。さらに、社会生活における様々な現象について法律の視点から考えられるようにしたい。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	法の基礎知識	法的な思考というものの特色や、法と倫理の関係を含め、法を学んでいく上で理解しておくべき基本的な知識を学ぶ。	講義
2	患者の人権と医療政策の基礎－憲法と行政法	憲法（日本国憲法）と行政法の概要を学んだ上で、医療従事者が特に理解しておくべき患者の自己決定権やプライバシー権（個人情報の保護を含む）、生存権等を重点的に学ぶ。	
2	人の生命・身体の安全の刑法的保護－刑法	犯罪と刑罰について定める刑法の基本を学んだ上で、人の生命及び身体の安全が刑法等においてどのように保護されているのかを、安楽死・尊厳死の問題や脳死・臓器移植法の内容を含めて学ぶ。	
2	市民社会における「人」とその保護－民法①	市民社会の主役である「人」がどのように守られているかを、「子ども」や「高齢者」の保護に関する民法上及び関連する法律上の制度を中心に学ぶ。	
2	契約と不法行為－民法②	民事医療過誤法を理解するための基礎となる「契約」（医療契約・医療保険制度を含む）や「不法行為」の基本的な事項を学ぶ。	
1	事故による法的責任と紛争解決制度	事故を起こした場合に生ずる刑事上、民事上及び行政上の3つの法的責任と、それぞれの責任を問う手続について学ぶ。	
3	労働に関する法	働く者として理解しておくべき労働に関する法（母性保護のための措置や各種ハラスメントを含む）の基礎を学ぶ。	
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 看護のための法学（第5版）

ミネルヴァ書房

参考文献 : 必要時、資料を配布します

学生のみなさんへ : 積極的な質問を歓迎します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
関係法規Ⅱ	1	15	2年後期	クラス別	小野田充宏 実務経験あり(弁護士)

科目のねらい

この授業では、法学入門で学習した法規についての基礎知識をもとに、医療・看護を規制する法令や看護師の法的責任について深く学び、看護師として職務を遂行するための根拠や判断の基準を理解することをねらいとする。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	医療に関する法規制の仕組みと医療提供の理念	法は医療に対してどのようにして規制を加えているのか、また、法が目指す医療提供のあり方はどのようなものかについて学ぶ。	講義
2	医療従事者の資格と業務に関する法－医療従事者法①	医療従事者の資格(免許制度)の基礎的な事項や、医師法や保健師助産師看護師法等の個々の法律を見ただけではわかりにくい医療従事者の業務分担の仕組みについて学ぶ。	
2	医師・看護師等の定義と資格－医療従事者法②	医師や看護師は法律上どのように定義されているかを確認した上で、医師及び看護師の免許制度や行政処分等について学ぶ。	
2	医師・看護師等の業務－医療従事者法③	看護師の業務、及びその前提となる医師の業務等について、法律の規定のほか、行政機関の通達・通知や判例等を含めて深く学ぶ。	
2	医師・看護師等の義務－医療従事者法④	医師や看護師に課せられた各種の業務上の義務や、それに関連する事項(診療録の意義や重要性等)について学ぶ。	
2	医療提供施設と看護師の人材確保に関する法	医療を提供する施設に関する医療法の規制や、看護師人材を確保するための施策等について学ぶ。	
1	薬務に関する法	薬機法や薬剤師法、毒物及び劇物取締法等の内容を概観し、医薬分業という考え方や、医薬品・医療機器、毒物劇物の取扱い等に関する規制を学ぶ。	
3	医療安全と医療事故・医療過誤に関する法	医療法における医療安全確保のための制度のほか、看護師がかかわる医療事故にはどのようなものがあるか、看護師が業務を行うにあたってはどのような義務(業務上の注意義務)を負っているのか、看護師がこの義務に違反して医療事故(看護事故)を引き起こした場合にどのような法的責任を負うのか等について学ぶ。	
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 看護関係法令

医学書院

学生のみなさんへ : 積極的な質問を歓迎します

専門分野 I

基礎看護学



科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
看護研究	1	30	2年 後期	クラス別	斉藤 恭子 実務経験あり(看護師) 演習 (学内教員)

科目目的

看護の問題を科学的に解決できるよう研究プロセスおよび研究態度を学ぶ

科目目標

1. 看護研究の必要性を理解する。
2. 看護研究のプロセスを理解する。
3. 研究の過程を体験し、自己の看護観を深められる。
4. 看護に関係する研究論文を批判的、科学的に読み、研究成果の価値を理解できる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
8	看護研究の概要 (研究の役割、種類、プロセス)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究とは 2) 看護における研究とは 2. 看護研究の種類 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事例研究 2) 調査研究 3) 実験研究 4) 文献研究 3. 看護研究のプロセス <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究計画書 <ol style="list-style-type: none"> ①研究課題と概念枠組みの明確化 ②研究方法の選定とデータ収集方法 ③倫理的配慮 2) データ収集・分析 3) 論文作成 <ol style="list-style-type: none"> ①論文の構成 ②執筆規程 4) 発表 <ol style="list-style-type: none"> 発表の種類 	講義
2	文献検索と批判的な論文の読み方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検索 <ol style="list-style-type: none"> 1) 文献検索の意義 2) 文献の種類 3) 文献の整理 2. 文献検索の実際 	講義
6	文献のクリティーク	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献のクリティークとは 2. 文献のクリティークの実際 	講義 演習
14	研究の実際	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題の明確化 2. 研究計画書立案 3. 研究の実際 4. 研究論文作成 5. 発表 	演習 個人またはグループ

評価方法 : レポート評価

教科書 : Step by Step 第5版 黒田 裕子 医学書院

参考文献 : 都度紹介

学生のみなさんへ : 積極的に看護研究に臨んでください。

専門分野Ⅱ

成人看護学

成人看護学 (6単位165時間)

成人看護学	成人看護学総論 I (1単位15時間)	成人期にある人の理解	成人看護の目的 成人の定義 成人の特徴の概要
		成人期の成長発達の特徴	成人の成長発達と成人の役割 青年期・壮年期・向老期の健康問題 成人と死
		成人の生活を理解する視点と方法	成人の生活の理解とアセスメント
	成人看護学総論 II (1単位30時間)	身体機能の特徴と看護	身体機能の安定性と変化 身体機能の理解に基づく看護 身体機能の変化に着目したアセスメントと看護
		健康観の多様性と看護	主要な健康観 健康観に影響を及ぼす要因 健康観を理解する方法 保健行動と健康観
		成人の学習の特徴と看護	大人の学びの特徴 成人教育学の概念(アンドロジジーモデル) 大人の学びの目標(エンパワメントモデル)
		成人期に見られる健康障害	生活習慣に関連する健康障害 職業に関連する健康障害 生活ストレスに関連する健康障害 セクシュアリティに関連する健康障害 余暇に関連する健康障害 更年期に関連する健康障害
		変化する医療・生活環境に対応した看護	新たな治療法・先端医療の実際と看護 倫理的課題
		成人への看護に有用な概念	ストレス理論・コーピング理論 危機理論 行動変容・自己効力感 役割理論 痛みの軌跡 ナラティブアプローチ 事例展開の紹介
		成人看護学方法論 I (1単位30時間)	急性期にある患者の看護
		回復期にある患者の看護	回復期にある患者とその家族の特性 回復期における看護の目標 リハビリテーションを必要とする患者の看護 運動機能障害を持つ患者の看護 脳・神経機能障害を持つ患者の看護
	成人看護学方法論 II (1単位30時間)	慢性期にある患者の看護	慢性期にある患者とその家族の特性 慢性期における看護の目標 障害コントロールを必要とする患者の看護 呼吸機能障害を持つ患者の看護 排泄機能障害を持つ患者の看護 内分泌・代謝機能障害を持つ患者の看護 身体防御機能障害を持つ患者の看護
		終末期にある患者の看護	終末期医療の現状と課題 終末期にある人の療養の場と看取りの場 終末期における概念 終末期にある人とその家族の特性 終末期におけるチーム医療と看護師の役割 意思決定 学生の心構えについて
		成人期にある対象の看護過程の展開	紙上事例を用いた看護過程の展開
	成人看護学方法論 III (1単位30時間)	救急医療における患者の看護	わが国の救急医療・救急看護体制 救急看護と法的・倫理的側面 救急患者の特徴 救急救命処置 救急患者への心理的援助 救急患者の家族に対する援助
		集中治療下における患者の看護	集中治療が行われる場の特徴 集中治療を受ける患者の看護 集中治療を受ける患者の家族に対する援助
		周術期における患者の看護	外科的治療の実際 周術期看護の概論 手術前患者の看護 手術中患者の看護 手術後患者の看護
		侵襲的治療を受ける患者の看護	健康の急激な破綻 侵襲的治療と看護 低侵襲的治療と看護
	成人看護学方法論 IV (1単位30時間)		包帯法 創傷管理 穿刺・簡易血糖測定 吸入法 吸引法 輸液管理 専門家別技術演習 グループ別技術演習

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり(看護師)
成人看護学方法論 I	1	30	2年前期	クラス別	阿部裕矢(循) 佐藤恵美(消) 竹内明美(運) 千葉祐子(脳)

科目目的

成人期にある対象の持つ多様な健康課題を理解し、対象および家族に必要な看護を学ぶ。

科目目標

急性期・回復期にある患者の特徴と必要な看護を理解する。

授業進度と内容

時間	単 元	学 習 内 容	学習方法
8	急性期にある患者の看護	1. 急性期にある患者とその家族の特徴 2. 急性期における看護の目標 3. 消化機能障害をもつ患者の看護 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 代表疾患の看護 (1) 胃がん (2) 大腸がん (3) 肝硬変	講義
6	急性期にある患者の看護	4. 循環機能障害をもつ患者の看護 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 代表疾患の看護 (1) 狭心症 (2) 心筋梗塞	講義
8	回復期にある患者の看護	1. 回復期にある患者とその家族の特徴 2. 回復期における看護の目標 3. リハビリテーションを必要とする患者の看護 1) リハビリテーションの目的・意味 2) 障害受容の過程 4. 運動機能障害をもつ患者の看護 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 疾患を持つ患者の看護 (1) 大腿骨頸部骨折 (2) 脊髄損傷 (3) 腰椎椎間板ヘルニア	講義
8	回復期にある患者の看護	1. 脳・神経機能障害を持つ患者の看護 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 疾患を持つ患者の看護 (1) 脳梗塞 (2) クモ膜下出血 ※ 感覚器機能障害を持つ患者の看護は 病態学IVで学習する	講義
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 成人看護学 ⑤消化器 ③循環器 ⑩運動器 ⑦脳神経 医学書院

参考文献 : その都度配布・紹介します。

学生のみなさんへ : 急性期・回復期の看護目標を意識し、事例をとおしてその実際を学びます。

疾患や治療などの基礎知識を復習して講義に臨みましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり(看護師)
成人看護学方法論Ⅱ	1	30	2年前期	クラス別	上岡 晃 (終末期) 千葉 祐子(慢性期)(看護過程)

科目目的

1. 成人期にある対象の持つ多様な健康課題を理解し、対象および家族に必要な看護を学ぶ。
2. 健康障害のある成人期にある対象に対して、看護過程を展開する能力を養う。

科目目標

1. 慢性期・終末期にある対象および家族の必特徴と必要な看護を理解する。
2. 成人期にある対象の事例をもとに、看護過程を展開し対象者に合った看護を計画できる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
10	慢性期にある患者の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期にある対象者とその家族の特徴 2. 慢性期における看護の目標 3. 生涯コントロールを必要とする患者の看護 4. 呼吸機能障害を持つ患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 代表疾患の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 肺がん 5. 排泄機能障害を持つ患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 代表疾患の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 慢性腎不全 6. 内分泌・代謝機能障害を持つ患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 代表疾患の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 糖尿病 7. 身体防御機能障害を持つ患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の役割 2) 症状に対する看護 3) 治療・処置を受ける患者の看護 4) 代表疾患の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 白血病 (2) 膠原病 	講義
8	終末期にある患者の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期医療の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 安楽死 2) 尊厳死 2. 終末期にある人の療養および看取りの場 3. 終末期における概念 4. 終末期にある人とその家族の特性 <ol style="list-style-type: none"> 1) QOL 2) トータルペイン 3) 家族が直面する危機 5. 終末期におけるチーム医療と看護師の役割 6. 意思決定 <ol style="list-style-type: none"> 1) リビング・ウィル 2) アドバンス・ディレクティブ 7. 学生の心構えについて 	認定看護師からの講義

時間	単元	学習内容	学習方法
1 2	成人期にある対象の看護過程の展開	1. 紙上事例を用いた看護過程の展開 1) 学習計画の立案 2) 事前学習 3) 発達段階・課題、病理的状态 4) 14項目のアセスメント 5) 看護課題の明確化 6) 関連図 7) 優先順位の根拠の明確化 8) 看護計画の立案 9) 実施・評価の視点	講義 個人学習 GW
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 成人看護学 (医学書院)

②呼吸器 ⑧腎・泌尿器 ④血液・造血器 ⑥内分泌代謝 ⑩アレルギー、膠原病、感染症

看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版

参考文献 : ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト 第4版

ナーシンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版

臨床看護学総論 メヂカルフレンド社

学生のみなさんへ : 事前学習が大切です。文献を十分に活用し、学習を深めましょう。

看護過程では個人学習が中心ですので、計画的に学習しましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり(看護師)
成人看護学方法論Ⅲ	1	30	2年 前期	クラス別	千葉祐子 (周術期、侵襲的治療) 渡辺静香 (救急医療・集中治療)

科目目的

危機的状況および周術期にある対象と家族に必要な看護を実践するための基礎的知識を学ぶ

科目目標

1. 救急患者および家族、救急看護の特徴を理解する。
2. 救命救急に必要な救急処置と看護技術を理解する。
3. 集中治療を受ける患者および家族の特徴と看護について理解する。
4. 侵襲的治療を受ける患者の特徴と看護を理解する。
5. 手術療法を受ける患者および家族の特徴と看護を理解する。

授業進度と内容

単 元	学 習 内 容	学習方法
救急医療における 患者の看護 (渡辺)	<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の救急医療・救急看護体制 2. 救急看護と法的・倫理的側面 3. 救急患者の特徴 4. 救急救命処置 <ol style="list-style-type: none"> 1) 一次救命処置 (BLS) 2) 二次救命処置 (ALS) 5. 救急患者への心理的援助 6. 救急患者の家族に対する看護 	講義
集中治療下における 患者の看護 (渡辺)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集中治療が行われる場の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 集中治療を受ける患者の特徴 2) ICU・HCU・CCU 3) 医療チーム 4) 安全管理 2. 集中治療を受ける患者の看護 3. 集中治療を受ける患者の家族に対する看護 	講義
侵襲的治療を受ける 患者の看護(千葉)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の急激な破綻 2. 侵襲的治療と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術療法 2) 化学療法 3) 放射線療法 3. 低侵襲的治療と看護 	講義
周術期にある患者の 看護(千葉)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外科的治療の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 麻酔を受ける患者の看護 2) 麻酔侵襲・手術侵襲と生体の反応 2. 周術期看護の概論 <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術を受ける患者の特徴と看護師の役割 2) 安全管理・感染予防 3. 全身麻酔下で開腹手術を受ける患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 手術前患者のアセスメントと看護 2) 手術中患者のアセスメントと看護 3) 手術後患者のアセスメントと看護 <ol style="list-style-type: none"> ①術後合併症 ②術後の回復を促進するための看護 ③セルフケアに向けた看護 4. 鏡下式手術を受ける患者の看護 	講義

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論 医学書院
臨床看護総論 メヂカルフレンド社

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
成人看護学方法論Ⅳ	1	30	2年 前期	クラス別	千葉 祐子 実務経験あり(看護師)

科目目的

成人看護に必要な看護技術を学ぶ。

科目目標

診療に伴う援助技術の原理・原則を理解し、安全・安楽に提供できるように習得する。

授業進度と内容

時間	単 元	学 習 内 容	学習方法
2	包帯法	1. 包帯法の基礎知識・方法 2. 包帯法に関するアセスメント	講 義 DVD
2	創傷管理	1. 創傷の分類・治癒過程・創傷管理の方法 2. ドレッシング法 3. 創傷管理に関するアセスメント 4. 創傷処置の方法	
2	穿刺・ 簡易血糖測定・	1. 穿刺の基礎知識・方法・留意点 2. 穿刺に関するアセスメント 3. 血糖自己測定の方法、滅菌手袋の装着方法	
2	吸入法	1. 吸入法の基礎知識・方法・留意点 2. 吸入法に関するアセスメント 3. 薬液吸入・気道内加湿の方法 4. 酸素吸入の方法	
2	吸引法	1. 吸引の基礎知識・方法・留意点 2. 吸引に関するアセスメント	
2	輸液管理	1. 輸液管理の基礎知識・方法・留意点 2. 滴下数の求め方 3. 輸液療法に関するアセスメント 4. 輸液ポンプの取り扱い	
6	専門家別 技術演習	1. 演習オリエンテーション 1) 演習内容 ①創傷管理、滅菌グローブ着脱・鑷子間の受渡 ②酸素吸入、気道内加湿 ③吸引（口腔・気切部） ④簡易血糖測定・輸液ポンプ（滴下計算含む） 2) 演習方法（ジグソー学習法） 3) 担当技術（専門家）の決定 2. 専門家同士による技術練習	
12	グループ別 技術演習	1. 各グループの専門家が、グループメンバーに対してデモン ストレーションを実施する。 2. メンバーは、専門家の指導を受けながら技術の練習を行う。 3. 専門家は、メンバーの技術習得度を評価する。	
1	単位修得認定試験		

評価方法：筆記試験、レポート、演習参加態度

教科書：基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社
看護が見える①② メディックメディカ

参考文献：その都度配布・紹介します。

学生のみなさんへ：事前学習をして授業・学内実習に臨みましょう。ジグソー学習は、専門家の役割を持った学生が、他の学生に技術を教え互いに学び合うことを目的にした学習方法です。主体性と責任感を持って活発な学習になることを期待しています。

老年看護学

老年看護学 (5単位 120時間)

老年看護学	老年看護学総論 I (1単位 15時間)	老年期の理解	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者を知ろうとすること 老いのイメージ 加齢と老化 高齢者の定義 老年期の発達・成熟
		加齢に伴う変化と アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> 身体的側面の変化 精神的側面の変化 社会的側面の変化 身体に加齢変化とアセスメント
		老年看護の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 老年看護のなりたち・定義 老年看護の役割 老年看護における理論・理念の活用 老年看護に携わる者の責務
		生活・療養の場における 看護とリスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者とヘルスプロモーション 保健医療福祉施設および居住施設における看護 高齢者と救命救急 高齢者と災害
	老年看護学総論 II (1単位 30時間)	超高齢社会の統計的輪郭	超高齢社会の現況
		高齢社会における 保健医療福祉の動向	<ul style="list-style-type: none"> 保健医療福祉システムの構築 高齢者を支える多職種連携と看護活動
		老年看護の倫理	高齢者の権利擁護
		高齢者模擬体験演習	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者模擬体験 高齢者と医療安全
	老年看護学方法論 I (1単位 15時間)	健康障害の特徴と アセスメント・看護	老年症候群ー主要な症候とおこりやすい 問題・アセスメントと看護
		高齢者に特有な 症候・疾患・障害	高齢者の疾患の特徴
		治療を必要とする高齢者 への看護	<ul style="list-style-type: none"> 入院治療を受ける高齢者への看護 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族への看護 検査を受ける高齢者の看護 薬物療法を受ける高齢者の看護 手術を受ける高齢者の看護 リハビリテーションを受ける高齢者の看護
		老年看護学方法論 II (1単位 30時間)	日常生活を支える 基本活動
	老年看護の援助技術		<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムのアセスメントと看護 高齢者とのコミュニケーション 転倒のアセスメントと看護 身体機能に障害のある高齢者への移動の援助 食生活のアセスメントと看護 嚥下機能障害のある高齢者への食事の援助 排泄のアセスメントと看護 清潔のアセスメントと看護 排泄機能に障害のある高齢者への排泄と清潔の援助 セクシュアリティ 社会参加
	老年期にある人の 看護過程の展開		<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の看護過程展開における特徴 事例展開
	老年看護学方法論 III (1単位 30時間)		身体可動性に障害の ある高齢者への看護
		認知機能障害のある 高齢者への看護	認知機能障害のある高齢者への援助
コミュニケーション障害の ある高齢者への看護		<ul style="list-style-type: none"> 高齢者とのコミュニケーションの特徴と関わり方 コミュニケーション障害のアセスメントと看護 	
エンドオブライフケア		エンドオブライフケアの概念	

科 目	単 位	時間数	講義時期	授業形態	講 師 実務経験あり
老年看護学方法論 I	1	15	2年 前期	クラス別	若林 崇雄 (医師) 山下 いずみ(看護師)

科目目的

老年の健康障害の特徴と老年期に多い健康障害を学ぶ。

科目目標

1. 高齢者に多く見られる疾患、主な症状を理解する。
2. 高齢者の特徴をふまえた検査・治療を理解する。

授業進度と内容

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
5	健康障害の特徴と アセスメント・看護 (山下)	1. 老年症候群—主要な症候とおこりやすい問題・ アセスメントと看護 1) 意識障害 2) 発熱・熱中症・脱水症 3) やせ 4) 痛み・かゆみ 5) 嘔吐 6) 浮腫 7) 倦怠感 8) 手足のしびれ	講 義
4	高齢者に特有な症候・疾 患・障害 (若林)	1. 高齢者の疾患の特徴 1) 心不全、浮腫、胸水 2) 肺炎 3) 慢性閉塞性肺疾患 4) 腎不全 5) 骨粗鬆症・骨折・変形性関節症 6) うつ病 7) 脳血管障害 8) 前立腺肥大症 9) 皮膚痒痒症・白癬・疥癬	講 義
6	治療を必要とする 高齢者への看護 (山下)	1. 入院治療を受ける高齢者への看護 2. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族への 看護 3. 検査を受ける高齢者の看護 4. 薬物療法を受ける高齢者の看護 高齢者の安全な薬物療法 5. 手術を受ける高齢者の看護 6. リハビリテーションを受ける高齢者の看護	講 義
1	単位修得認定試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 老年看護病態・疾患論、老年看護学 医学書院

参考文献 : その都度配布・紹介します。

学生のみなさんへ : 積極的な質問を歓迎します。

科 目	単 位	時間数	講義時期	授業形態	講 師 実務経験あり
老年看護学方法論Ⅱ	1	30	2年 前期	クラス別	緑川 弥生(看護師) 中村 園美(看護師)

科目目的

1. 高齢者の特徴をふまえ、高齢者の生活機能を整える知識を習得する。
2. 老年の健康課題に対する生活上の問題を判断し、解決するために理論的知識を用いて、問題解決思考の方法を習得する。

科目目標

1. 高齢者の日常生活の変化が理解できる。
2. 高齢の対象者を援助する際のアセスメント方法を学び、安全性を考慮した日常生活の援助方法を実践できる。
3. 老年期の看護の特徴をふまえ、事例から看護過程を展開する能力を養う。

授業進度と内容

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
2	日常生活を支える基本的活動 ① (緑川)	1. 基本動作と環境のアセスメントと看護 1) 生活の基本となる日常生活動作 2) 基本動作と環境の理解と看護 3) 日常生活活動(動作)の評価指標	講 義
6	日常生活を支える基本的活動 ② (乗次)	1. 転倒のアセスメントと看護. 2. 清潔のアセスメント 3. 生活リズムのアセスメントと看護	講 義
4	日常生活を支える基本的活動 ③ (緑川)	1. 食生活のアセスメントと看護 2. 嚥下機能障害のある高齢者への食事の援助	講義 演習
4	日常生活を支える基本的活動 ④ (緑川)	7. 排泄のアセスメントと看護 8. 清潔のアセスメントと看護 9. 排泄機能に障害のある高齢者への排泄と清潔の援助	
2	日常生活を支える基本的活動 ⑤ (緑川)	10. セクシュアリティ 12. 社会参加	講義
12	老年期にある人の看護過程の展開 (乗次)	演習 1. 高齢者の看護過程展開における特徴 2. 事例展開 1) 情報収集、アセスメント 2) 看護問題の明確化(関連図作成) 3) 看護計画の立案 4) 実施・評価	講 義 演習
1	単位修得認定試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 老年看護学 医学書院

参考文献 : その都度紹介

学生のみなさんへ : 高齢者への生活援助技術の基本を学んでいきましょう

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
老年看護学方法論Ⅲ	1	30	2学年前期	クラス別	小原菜穂(看護師) 疋田健(看護師) 上岡晃(看護師) 朝倉あつ子(看護師)

科目目的

健康障害の特徴と健康状態に応じ、高齢者とその家族に対する看護を実践するための知識・技術・態度を養う。

科目目標

1. 健康維持・増進のための援助方法が理解できる。
2. 高齢者に多く見られる疾患、主な症状の看護方法を理解する。
3. 身体可動性に障害のある高齢者とその家族の問題を知り、その支援の方法を理解する。
4. 終末期にある高齢者とその家族への援助方法を理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
8	身体可動性に障害がある高齢者の看護 (小原)	1. 高齢者の健康の維持・増進の方法 2. 身体可動性に障害がある高齢者の看護 1) 廃用症候群の主な症状 2) 廃用症候群のアセスメントと看護ケア 3) 褥瘡のリスクアセスメント 4) 褥瘡の予防と看護ケア	講義 ビデオ GW
8	認知機能障害がある高齢者への看護 (疋田)	1. 認知機能障害がある高齢者への看護 1) せん妄とは 2) 認知症とは 3) 認知症の高齢者への援助 4) 家族への援助	講義
6	コミュニケーション障害のある高齢者への看護 (朝倉)	1. 高齢者とのコミュニケーションの特徴と関わり方 1) 視力障害 2) 聴力障害 3) 失語症の症状と分類 4) 構音障害の症状と分類 2. コミュニケーション障害のアセスメントと看護	講義
8	エンドオブライフケア (上岡)	1. エンドオブライフケアの概念 1) エンドオブライフケアとは 2) 死生観、意思決定への支援 3) 末期段階に求められる援助 ①身体的変化とアセスメント ②緩和ケア ③家族への支援 ④グリーフケア	講義 GW
1	単位修得認定試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 老年看護学、老年看護 病態・疾患論 医学書院

参考文献 : その都度紹介

学生のみなさんへ : 老年期の健康障害に対する看護について学んでいきます。グループワークでは自分の意見を積極的に述べ、学びを深めていきましょう。

小児看護学

小児看護学 (4単位 105時間)					
小児看護学	小児看護学総論 I (1単位 15時間)	小児看護の目ざすところ	小児看護の対象 小児看護の目標と役割 わが国の人口構造、出生と家族 子どもの死亡		
		小児と家族の諸統計			
		小児看護の変遷	小児医療、小児看護の変遷 子どもの権利と変遷		
		小児看護における倫理	医療現場におこりやすい問題点と看護 疾病構造の変化と小児看護		
		小児看護の課題	諸統計からみた子どもと家族の健康課題 社会の変化と小児看護 小児看護の専門分化		
	小児看護学総論 II (1単位 30時間)	子どもの成長発達と評価	成長・発達、一般的原則、発達課題と理論 成長・発達に影響する因子、養育環境 成長・発達の評価、発達検査 形態的特徴、感覚運動機能、情緒社会的機能		
		子どもの栄養	発達段階別の子どもの栄養の特徴		
		小児各期の特徴と生活	新生児、乳児の養育および看護 幼児期の基本的な生活習慣の獲得、養育および看護 学童期の子供を取り巻く諸環境、養育および看護 思春期・青年期の生活の特徴、思春期の看護		
		家族の特徴とアセスメント	子どもにとっての家族、家族アセスメント		
		子どもと家族を取り巻く社会	児童福祉、母子保健、医療費支援 予防接種、学校保健 特別支援教育、臓器移植法 虐待の特徴、虐待防止に向けての支援		
	小児看護学方法論 I (1単位 30時間)	小児に多い健康障害の病態生理・経過・治療	急性期 呼吸器疾患、感染症 消化器障害、腸重積症、熱性痙攣、髄膜炎 慢性期 循環器障害、内分泌障害 腎泌尿器障害、免疫アレルギー 終末期 悪性新生物、血液造血器障害 心身障害児、低体重児・新生児、出生前疾患 小児の救急法		
		病気・障害を持つ子どもと家族の看護	病気・障害が子どもと家族に与える影響 健康問題と看護		
		子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	入院中の子どもと家族の看護 外来における子どもと家族の看護 在宅療養中の子どもと家族の看護 災害時の子どもと家族の看護		
		子どもにおける疾病の経過と看護	慢性期にある子どもと家族の看護 急性期にある子どもと家族の看護 周手術期の子どもと家族の看護 終末期の子どもと家族の看護		
		症状を示す子どもの看護	各症状別看護 事故・外傷と看護		
小児看護学方法論 II (1単位 30時間)	子どものアセスメント検査・処置を受ける子どもの看護	アセスメントに必要な技術 身体的アセスメント			
	看護過程	子どもにとっての検査・処置体験			

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
小児看護学総論Ⅱ	1	30	2年 前期	クラス別	岡田 千佐子 実務経験あり(看護師)

科目目的

1. 小児保健統計をふまえ、子供を保護する法律や保健対策を学ぶ。
2. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を学ぶ。
3. 小児各期の特徴と成長発達を理解し小児看護の対象と機能・役割を学ぶ。

科目目標

1. 小児保健の意義と動向を理解する。
2. 小児の精神衛生と保健活動について理解する。
3. 小児各期の成長発達と評価を理解する。
4. 小児各期の特性と生活を理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
18	子どもの成長・発達	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達課題と小児看護で用いられる理論 2. 成長発達の進み方(一般的原則) 3. 成長発達の影響する因子、養育環境 4. 成長・発達の評価、発達検査 5. 形態的特徴・感覚運動機能・情緒社会的機能 6. 小児各期の特徴と生活 <ol style="list-style-type: none"> 1) 新生児期の特徴と療育および看護 2) 乳児期の特徴と療育および看護 3) 幼児期の特徴と療育および看護 4) 学童期の特徴と療育および看護 5) 思春期・青年期の特徴と療育および看護 	講義 GW DVD
4	子どもの栄養	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもにとっての栄養の意義 2. 食事摂取基準 3. 発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護 4. 調乳方法、離乳食(演習) 	講義 演習
4	家族の特徴とアセスメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもにとっての家族とは 2. 家族アセスメント 	講義
4	子どもと家族を取り巻く社会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉、母子保健 2. 医療費の支援 3. 予防接種、学校保健 4. 特別支援教育 5. 臓器移植法 6. 子どもへの虐待の特徴 7. 虐待のリスク要因と早期発見 8. 虐待の未然防止に向けての支援、多機関・多職種との連携 	講義
1	単位修得認定試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

参考文献 : その都度紹介・配布します。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
小児看護学方法論 I	1	30	2年 前期	クラス別	佐藤 俊哉 実務経験あり(医師)

科目目的

小児の健康障害の特徴と小児期に多い健康障害を学ぶ。

科目目標

小児期に多い健康障害の病態生理・経過・治療を理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
10	小児に多い健康障害の病態生理・経過・治療	1. 急性期 肺炎、小児伝染性疾患、川崎病、乳児下痢症、幽門狭窄症、腸重積症、熱性痙攣、髄膜炎	講義
8	小児に多い健康障害の病態生理・経過・治療	1. 慢性期 先天性心疾患、若年性糖尿病、周期性嘔吐症 糸球体腎炎、気管支喘息	講義
4	小児に多い健康障害の病態生理・経過・治療	1. 終末期 悪性新生物、白血病、血友病	講義
4	小児に多い健康障害の病態生理・経過・治療	1. 心身障害児、低体重児、新生児 2. 出生前疾患	講義
4	小児に多い健康障害の病態生理・経過・治療	1. 小児の救急法 呼吸停止、心停止、誤飲、溺水、外傷、出血	講義
1	単位修得認定試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 小児臨床看護各論 医学書院

参考文献 : その都度紹介・配布します。

学生のみなさんへ : 資料をたくさん配布して進めますので、必ず忘れず資料を持参して臨みましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
小児看護学方法論Ⅱ	1	30	2年 後期	クラス別	佐藤 真紀子(看護師/助産師) 花井 未帆(看護師)

科目目的

健康障害を持つ子ども、保護者への影響を理解し、健康を障害された子どもとその家族に必要な看護を実践するための知識、技術、態度を養う。

科目目標

1. 健康を障害された子どもの看護について理解する
2. 子どもの疾病経過の特徴とその看護について理解する
3. 健康回復に向けての看護について理解する
4. 主な症状を持つ子どもの看護について理解する
5. 子どもの特殊技術・治療・処置別看護について理解する
6. 健康障害をもった子どもと家族についての看護過程を展開する

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2. 子どもの健康問題と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの治療・健康管理にかかわる看護 2) 子どもの日常生活にかかわる看護 3) 健康問題を持つ子どもの看護 	講義
2	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入院中の子どもと家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 入院環境と看護の役割 2) 入院中の子どもと家族の特徴・看護 2. 外来における子どもと家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割 2) 外来の環境 3) 外来における子どもと家族の特徴・看護 3. 在宅療養中の子どもと家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅療養の環境と看護の役割 2) 在宅療養中の子どもと家族の特徴・看護 4. 災害時の子どもと家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 被災地の環境と看護の役割 2) 災害時の子どもと家族の特徴・看護 	講義 DVD

2	子どもにおける 疾病の経過と看護	1. 慢性期にある子どもと家族の看護 1) 慢性期の特徴と看護 2) 慢性期の代表疾患の看護 2. 急性期にある子どもと家族の看護 1) 急性期の特徴と看護 2) 急性期の代表疾患の看護 3) ハイリスク新生児・先天性疾患・心身障害のある子どもと家族の看護 3. 周手術期の子どもと家族の看護 4. 終末期の子どもと家族の看護	講義
6	症状を示す子どもの看護	1. 各症状別看護 不機嫌、啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、 ショック、発熱、発疹、嘔吐、下痢、便秘、脱水、 浮腫、出血、貧血、黄疸、けいれん、意識障害 2. 事故・外傷と看護 1) 子どもの事故の特徴とその要因 2) 事故防止と安全教育 3) 不慮の事故 頭部外傷、誤飲・誤嚥、溺水、熱傷、熱中症	講義
10	検査・処置を受ける 子どもの看護	1. アセスメントに必要な技術 2. 身体的アセスメント 3. コミュニケーション技術、プレパレーション 4. 子どもにとっての検査・処置 1) バイタルサイン測定、身体計測 2) 与薬、注射、輸液管理 3) 抑制 4) 検体採取：採尿、採血、腰椎穿刺 5) 経管栄養 6) 排泄；おむつ交換、浣腸 7) 呼吸症状の緩和；吸引、酸素療法、吸入療法 8) 救急処置；心肺蘇生法	講義 DVD 演習 (バイタルサイン測定、 身体測定、 採尿バッグ)
8	看護過程	急性期にある子どもの看護過程の展開	
1	単位修得認定試験		

評価方法：筆記試験

教科書：小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
小児臨床看護各論 医学書院

参考文献：紹介します。

母性看護学



科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
母性看護学総論Ⅱ	1	30	2年 前期	クラス別	齊藤 麻木 実務経験あり(看護師/助産師)

科目目的

1. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を知り、母性看護の課題と役割を学ぶ。
2. 女性のライフステージ各期の看護を学ぶ。

科目目標

1. 母子看護の歴史と統計からその変遷を知り、母性看護に関する組織や法律、母子保健施策の観点から母性看護の現状を理解する。
2. 母性を取り巻く環境の特徴と母性看護の現状を理解する。
3. 女性のライフサイクルに与えるホルモンの影響について理解する。
4. 母性のライフサイクル各期に起こりやすい疾患と健康問題、その看護について理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1. 母性看護の歴史と変遷 2. 母子保健統計の動向	講義、国民衛生の動向参照
6	母性看護に関する法律や施策と支援	1. 母性看護にかかわる組織 2. 母性看護に関わる法律 1) 母子保健に関する法律 2) 働く女性の健康・子育て支援に関する法律 3) DV防止法 4) 性暴力被害者支援 5) 虐待防止に関する法律 3. 母子保健施策の実際 1) 母子保健法に関する施策 2) 子育て支援に関する施策 3) 周産期医療のシステム	講義
2	母性看護の対象を取り巻く環境	1. 家庭、地域社会 2. 生物・社会文化的環境	講義
6	思春期女性の特徴・健康問題と看護	1. 第二性徴 2. 性意識・性行動の発達 3. 月経異常 4. 性感染症 5. 人工妊娠中絶	講義
8	成熟女性の特徴・健康問題と看護	1. 家族計画と受胎調節 2. 生殖補助医療 3. 出生前診断 4. 不妊症 5. 子宮内膜症 6. 子宮筋腫 7. 子宮がん	講義
4	更年期女性の特徴・健康問題と看護	1. ホルモンの変化と閉経 2. 更年期症状 3. 卵巣腫瘍	講義
2	老年期女性の特徴・健康問題と看護	1. 骨盤臓器脱 2. 老人性陰炎・外陰炎	講義
1	単位修得認定試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 母性看護学概論 医学書院
母性看護学各論 医学書院
成人看護学(9) 女性生殖器 医学書院

参考文献 : その都度配布・紹介します。

学生のみなさんへ : 母性看護の歴史と現状、女性のライフサイクル各期の看護を学びます。

科 目	単 位	時間数	講義時期	授業形態	講 師
母性看護学方法論 I	1	30	2年 後期	クラス別	齊藤 麻木 実務経験あり(看護師/助産師) (演習:齊藤,小林他)

科目目的

妊娠、分娩、産褥及び新生児の特徴を理解し、対象とその家族に必要な看護を実践できる能力を養う。

科目目標

1. 妊娠期の身体的、精神的、社会的特徴を理解し、その看護を学ぶ。
2. 分娩期の身体的、精神的特徴を理解しその看護を学ぶ。
3. 産褥期の身体的、精神的、社会的特徴を理解し、その看護を学ぶ。
4. 新生児の特徴を理解し、その看護を学ぶ。
5. 母性看護に特有な看護技術の意義と目的を理解し、体験をとおして理解できる。

授業進度と内容

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
6	妊娠期の看護	1. 妊娠期の身体的特徴、精神的特徴、社会的特徴 2. 妊娠期の看護 健康診査と保健指導、妊婦の診察と介助、 生活指導、マイナートラブルと保健指導 妊娠期の栄養、分娩の準備と分娩準備教育	講 義
6	分娩期の看護	1. 分娩後の身体的特徴、精神的特徴と分娩の母子に及ぼす影響 2. 分娩期の看護 1) 基本原則、分娩開始時と入院時の看護 2) 分娩第1期の経過と看護 3) 分娩第2期の経過と看護 4) 分娩第3期の経過と看護 5) 分娩第4期の経過と看護	講 義
6	産褥期の看護	1. 産褥期の身体的特徴、精神的特徴、社会的特徴 2. 産褥期の看護 1) 分娩後24時間の経過と看護 2) 日常生活の援助 3) 復古現象促進の援助 4) 母乳栄養確立のための援助 5) 退院に向けての保健指導	講 義
4	新生児の看護	1. 新生児の生理的特徴 2. 出生直後の新生児の看護 3. 新生児の看護 1) 看護の原則 2) 保育環境、 3) 日常の看護 4) 母親への保健指導・沐浴	講義
8	母性看護に特有な看護技術	1. 新生児の看護 1) 沐浴 2) 着替え 3) オムツ交換 4) ベッドからの抱き上げ・抱き方・寝かせ方 5) ミルク哺乳の方法 6) 排気 7) ドライテクニック 2. 母体の看護 1) 子宮底測定・腹囲測定 2) レオポルド触診法 3) 児心音聴取 4) 授乳姿勢と吸着	演 習 DVD
1	単位修得認定試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 母性看護学各論 医学書院 参考文献 : その都度配布・紹介します。

学生のみなさんへ : 事前学習をして授業や学内演習に臨みましょう。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
母性看護学方法論Ⅱ	1	30	2年 後期	クラス別	佐藤 真紀子(看護師/助産師) 小林 和子(看護師/助産師/保健師)

科目目的

母性各期に起こりやすい疾患と異常の徴候を理解し、健康障害の予防と看護が実践できる能力を養う。

科目目標

1. リプロダクティブヘルスケアについて特徴及び、看護について理解する。
2. 妊娠・分娩・産褥期にある女性及び早期新生児にみられる異常について理解する。
3. 妊娠、分娩、産褥期の特徴を理解し、セルフケア能力に視点をいた看護を展開できる能力を習得する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	方法
6	リプロダクティブヘルスケア	1. 性暴力を受けた女性に対する看護 2. HIVに感染した女性に対する看護 3. 人工妊娠中絶と看護 4. 出生前診断を受ける人への看護 5. 生殖補助医療を受ける人への看護 6. 性同一性障害と看護	講義 GW (佐藤)
6	妊娠の異常	妊娠期の健康問題と看護 1) 切迫流産 2) 妊娠高血圧症候群 3) 前置胎盤 4) 常位胎盤早期剥離 5) 前期破水 6) 妊娠貧血 7) 多胎妊娠 8) 妊娠糖尿病 9) 妊娠期の感染症	講義 (佐藤)
4	分娩の異常	分娩期の健康問題と看護 1) 微弱陣痛・過強陣痛 2) 分娩時の損傷 3) 分娩時異常出血 4) 帝王切開術と看護 5) 分娩誘発 6) 急速遂娩	講義 (佐藤)
2	産褥の異常	産褥期の健康問題と看護 1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱 3) 乳腺炎 4) 産後うつ症	講義 (佐藤)
2	新生児の異常	早期新生児の健康問題と看護 1) 早産児、低出生体重児 2) 新生児一過性多呼吸 3) 胎便吸引症候群 4) 新生児仮死 5) 新生児黄疸	講義 (佐藤)
10	看護過程	産褥期にある対象の看護過程の展開	講義・GW 個人ワーク (小林)
1	単位修得認定試験		

評価方法：筆記試験

教科書：母性看護学概論 医学書院
母性看護学各論 医学書院

参考文献：その都度配布・紹介します。グループ学習がありますので事前学習をして臨みましょう。

精神看護学

精神看護学 (4単位 105時間)

精神看護学	精神看護学総論 I (1単位 15時間)	精神看護学の目的・目標	精神看護学の位置づけ 精神看護の目的と目標 精神看護の対象となる個人と集団	
		精神保健の現状と今後	日本の精神保健の現状 心の機能と発達 危機状況と心の動き ノーマライゼーションと精神障害者の人権・倫理	
		精神看護の機能・役割	精神看護の特徴と主な治療の概要 精神障害者とその家族に対する看護 精神障害者を支援するための法律 精神科チーム医療と看護者の役割	
		精神看護学総論 II (1単位 30時間)	精神保健の概念	精神保健の定義 精神保健の領域 精神保健医療の変遷
			法律と社会資源	精神障害者支援に関わる法制度 精神保健医療福祉の施策と動向 入院患者の権利擁護
			医療現場における精神保健	医療場面での精神症状と精神保健 医療場面における家族への支援
		地域における精神保健	生活の場と精神保健 災害と精神保健 自殺の現状と予防対策	
		精神保健活動の実際と今後の課題	リハビリを促進する支援 地域移行支援 地域生活支援の現状と展開 精神保健に関する今後の課題	
		精神看護学方法論 I (1単位 30時間)	主な精神疾患・障害の特徴	脳の仕組みと精神機能
	症状性を含む器質性精神障害			
	精神作用物質使用による精神・行動の障害			
	統合失調症および妄想性障害			
	気分(感情)障害			
	神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害			
	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群			
パーソナリティ障害				
習慣および衝動の障害				
性同一性障害				
知的障害(精神遅滞)				
心理的発達の障害				
小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害				
精神看護学方法論 II (1単位 30時間)	精神に障害のある対象の看護過程	精神看護における安全と事故防止		
		精神を病む人への看護援助の基本		
		主な精神症状と問題行動への看護		
		主な精神疾患の看護		
		主な精神疾患の治療		
精神障害を持つ患者の家族への支援				
地域と精神科以外における看護				
統合失調症慢性期の看護過程				

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
精神看護学総論Ⅱ	1	30	2年 前期	クラス別	栗内 崇 実務経験あり (精神保健福祉士/認定心理士/ 社会福祉士)

科目目的

精神保健福祉の概要と変遷を学び、現代の医療福祉場面において対象が抱えている問題を理解する。また保健・医療・福祉チームにおける精神保健活動と今後の課題について学ぶ。

科目目標

1. 精神保健の概念について理解する。
2. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律と施策について理解する。
3. 精神保健の動向について学び、現状の問題や課題について理解する。
4. 精神保健活動と看護の役割を理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4	精神保健の概念	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健の定義 2. 精神保健の領域 3. 現代社会と精神保健 4. 精神保健医療の変遷 <ol style="list-style-type: none"> 1) 諸外国の精神医療・看護の歴史 2) 日本の精神医療・看護の歴史 	講義
6	精神保健及び精神保健福祉に関する法律と社会資源	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害者支援に関わる法制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健福祉法 2) 障害者総合支援法 2. 精神保健医療福祉の施策と動向 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健医療福祉の改革ビジョン 2) 精神医療の将来像 3. 入院患者の権利擁護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院における医療及び保護 2) 入院医療の特徴と処遇 4. 社会資源の活用 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会資源の種類 2) 各社会資源の概要 	講義
4	医療現場における精神保健	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療場面での精神症状と精神保健 <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体疾患と精神保健 2) 救急医療と精神保健 3) 終末期と精神保健 2. 医療場面における家族への支援 	講義

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
8	地域における精神保健	1. 生活の場と精神保健 1) 暮らしの場と精神保健 (1) 家族の機能と家族形態の変化 (2) 家族における精神保健上の問題 2) 教育の場と精神保健 (1) 現代の教育環境と心の健康 (2) 学校における精神保健上の問題 3) 職場と精神保健 (1) 職場の環境変化と心の健康 4) 地域と精神保健 (1) 人間関係の希薄化と心の健康 (2) 様々な社会問題とその様態 2. 災害と精神保健 1) 災害がもたらす精神への影響 2) 災害時の精神保健福祉活動 3. 自殺の現状と予防対策 1) 自殺のリスク要因 2) 自殺予防に関する政策 4. 地域における家族への支援	講 義
8	精神保健活動の 実際と今後の課題	1. リカバリーを促進する支援 1) 精神リハビリテーション 2) 精神障害予防と再発予防 3) ストレングス・レジリエンス エンパワメント 2. 地域移行支援 1) 長期入院患者への支援 2) 早期退院に向けた支援 3) 医療相談室の機能と役割 3. 精神障害者の地域生活支援の現状と展開 1) 地域生活支援システム 2) 精神保健医療福祉に関わる専門機関とその 活動 3) 地域生活支援者、専門職との連携 4. 精神保健に関する今後の課題	講 義
1	単位修得認定試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 系統看護学講座 精神看護学〔1〕情緒発達と精神看護の基本
 系統看護学講座 精神看護学〔2〕精神障害と看護の実践

参考文献 : 適宜紹介します

学生のみなさんへ : 精神保健の概念を理解し、精神障害者を支える法律や施策について学びます。また、現状における精神保健の動向や問題点・課題などを理解しながら精神保健活動の実際と看護の役割について学びます。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
精神看護学方法論 I	1	30	2年 後期	クラス別 合同	嶋岡 修平(医師) 北村一紘(医師) 吉田 隼輔(医師) 石橋幹之介(医師) 鈴木 ゆき(臨床心理士/公認心理士)

科目目的

精神神経障害の特徴と主な精神疾患の原因、診断、治療について理解する。

科目目標

1. 主な精神症状と精神疾患について理解する。
2. 主な臨床検査と治療について理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
16	主な精神疾患・障害の特徴	A. 脳の仕組みと精神機能 1) 脳の部位と精神機能 2) 神経伝達物質と精神機能・薬理作用 B. 症状性を含む器質性精神障害 1) 症状 2) 臨床検査および心理検査 3) 薬物療法とその他の治療法 C. 精神作用物質使用による精神・行動の障害 1) 症状 2) 臨床検査および心理検査 3) 薬物療法とその他の治療法 D. 統合失調症および妄想性障害 1) 症状 2) 臨床検査および心理検査 3) 薬物療法とその他の治療法 E. 気分〈感情〉障害 1) 症状 2) 臨床検査および心理検査 3) 薬物療法とその他の治療法 F. 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害 1) 症状 2) 臨床検査および心理検査 3) 薬物療法とその他の治療法	講義

時間	単元	学習内容	学習方法
1 4	主な精神疾患・障害の特徴	<p>F. 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 症状 2) 臨床検査および心理検査 3) 薬物療法とその他の治療法 <p>G. パーソナリティ障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 症状 2) 臨床検査および心理検査 3) 薬物療法とその他の治療法 <p>H. 習慣および衝動の障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 症状 2) 臨床検査および心理検査 3) 薬物療法とその他の治療法 <p>I. 性同一性障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 症状 2) 臨床検査および心理検査 3) 薬物療法とその他の治療法 <p>J. 知的障害（精神遅滞）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 症状 2) 臨床検査および心理検査 3) 薬物療法とその他の治療法 <p>K. 心理的発達の障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 症状 2) 臨床検査および心理検査 3) 薬物療法とその他の治療法 <p>L. 小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 症状 2) 臨床検査および心理検査 3) 薬物療法とその他の治療法 	
1	単位修得認定試験		

評価方法：筆記試験

参考文献：適宜紹介します

教科書：系統看護学講座 精神看護学〔1〕情緒発達と精神看護の基本
 系統看護学講座 精神看護学〔2〕精神障害と看護の実践

学生のみなさんへ：精神症状・状態像から精神疾患を理解し、その検査、治療を学びます。

科 目	単 位	時間数	講義時期	授業形態	講 師 実務経験あり
精神看護学方法論Ⅱ	1	30	2年 後期	クラス別	齋藤 伸 千葉 弘恵 (看護師)

科目目的

主な精神障害の特徴と精神疾患について理解し、対象者・看護師関係の成立、発展の必要性を知る。また、精神活動に障害のある個人とその家族への援助に必要な看護を実践する知識、技術、態度を身につける。

科目目標

1. 対象者―看護師関係の意義、発展させるための方法を理解する。
2. 対象の特徴を知り、様々な状況における看護の展開と援助技術について理解する。
3. 精神に障害をもつ対象の家族がおかれている状況を理解し、家族が危機を乗り越える為の援助を学ぶ。
4. 精神・保健・医療チームにおける看護師の役割を理解できる。

授業進度と内容

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
4	精神障害患者の理解 (千葉)	1. 精神を病む人への看護援助 1) 日常生活援助 2) 活用する技術 (1) コミュニケーション (2) ロールプレイング (3) 面接 (4) カウンセリング (5) グループワーク (6) 生活技能訓練 (SST) (7) 心理教育 3) 行動制限と看護 (1) 隔離室 (保護室) 使用時の看護 (2) 拘束の看護 4) 暴力のマネジメント (1) 患者からの暴力行為から回避 (逃げる) する方法 (2) 暴れている患者を保護する方法 (3) 言語的に興奮を鎮める技術 (4) お互いの位置関係を保つ 5) 患者＝看護者関係 (1) 患者＝看護者関係の基盤 (2) 患者＝看護関係の発展段階 6) プロセスレコードの活用	講 義 演 習
4	主な精神症状と 問題行動への看護 (齋藤)	1. 主な精神症状と問題行動への看護 1) 不安、緊張状態 2) 抑うつ状態 3) 引きこもり状態 4) 興奮、攻撃、躁状態 5) 幻覚、妄想 6) 強迫、儀式行動 7) 拒否、否定状態 8) 操作的状態 9) 自傷、自殺企図 10) 嗜癖行動 11) せん妄、認知症	講 義

時間	単元	学習内容	学習方法
4	主な精神疾患の看護 (齋藤)	1. 主な精神疾患の看護 1) 主な疾患の看護 (1) アルツハイマー病 (2) 血管性認知症 (3) アルコール、薬物依存症 (4) てんかん (5) 統合失調症 (6) 気分障害 (7) 心因性精神病と神経症 (8) 人格障害	講義
2	主な精神科治療の看護 (千葉)	1. 主な精神科治療の看護 1) 主な治療の看護 (1) 薬物療法、電気けいれん療法 (2) 精神療法 (3) 環境療法、社会療法	講義
2	精神障害をもつ患者の家族への看護 (齋藤)	1. 精神障害をもつ患者の家族への看護 1) 家族の理解 2) 家族への支援	講義
2	地域と精神科以外における看護 (千葉)	1. 地域での看護の実際 1) 治療を継続するためのリハビリテーションの場 (1) 精神科訪問看護 (2) 精神科デイケア・ナイトケア 2) 生活を支えるサービス (1) 社会復帰施設 (2) 地域生活支援事業 (3) 雇用及び就労支援としての社会資源 2. リエゾン看護	講義
1 2	精神に障害のある対象の看護過程 (千葉)	統合失調症の慢性期の看護過程	講義 GW
1	単位修得認定試験		

評価方法 : 筆記試験、レポート、GWの参加状況

教科書 : 系統看護学講座 精神看護学〔1〕情緒発達と精神看護の基本
系統看護学講座 精神看護学〔2〕精神障害と看護の実践

参考文献 : 適宜紹介します

学生のみなさんへ : 精神障害患者を理解し、精神に障害を持つ人への必要な看護を学習します。
積極的に参加し看護の考え方を学びましょう。

統合分野

在宅看護論

在宅看護論(4単位 105時間)

在宅看護論

在宅看護論総論 I
(1単位 15時間)

- 在宅看護の概念
 - 在宅看護の歴史と現状
 - 地域療養を支える看護師の役割・機能
 - 在宅看護の基本理念と倫理
 - 在宅ケアと在宅看護
- 在宅療養者と家族の支援
 - 地域における看護の対象者
 - 在宅看護の対象者と在宅看護の成立要件
 - 在宅看護と家族
 - 家族介護の個別性に応じた支援
- 在宅ケアを支える制度と社会資源
 - 社会資源の活用
 - 在宅ケアを支える制度
 - 高齢者を支える制度と社会資源
 - 障害者を支える制度と社会資源
 - 難病療養者を支える制度と社会資源
 - 子どもの在宅療養を支える社会資源
 - 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源
- 在宅療養を支える看護
 - 訪問看護の特徴
 - 在宅ケアを支える訪問看護ステーション
 - 訪問看護の実践
 - 訪問看護の記録
 - 在宅療養者への看護活動

在宅看護論総論 II
(1単位 30時間)

- 訪問看護サービスの仕組みと提供
 - 訪問看護ステーションの開設基準
 - 訪問看護サービス開始までの流れ
 - 訪問看護サービスの展開
 - 訪問看護サービスの質保証
 - 訪問看護サービスの管理・運営
- 在宅看護における安全と危機管理
 - 日常生活における安全管理
 - 在宅療養を支える災害対策
- 在宅ケアのケアマネジメントと関係機関・関係職種間の連携
 - 在宅ケアとケアマネジメント
 - 在宅ケアにおける関連機関・関連職種との連携・協働
 - 地域包括ケアシステムと在宅ケア
 - 事例検討

在宅看護論方法論 I
(1単位 30時間)

- 在宅療養者を支える基本的な技術
 - コミュニケーション
 - フィジカルアセスメント
 - 環境整備
 - 生活リハビリテーション
 - ターミナルケア
- 日常生活を支える看護技術
 - 食生活
 - 呼吸
 - 排泄
 - 睡眠
 - 清潔と更衣
 - 肢位の保持と移動
- 在宅療養者の症状・状態別看護
 - 小児在宅療養者
 - 認知症のある高齢在宅療養者
 - 精神疾患のある在宅療養者
 - 難病がある在宅療養者
 - 在宅ターミナルケア(家族へのグリーフケア含む)
- 療養を支える看護技術(医療ケア)
 - 薬物療法(インスリン自己注射含む)
 - がん化学療法・放射線療法
(外来通院中の在宅療養者に対する援助)
 - 酸素療法
 - 人工呼吸療法
 - 中心静脈栄養法
 - 褥瘡管理
 - 疼痛管理

在宅看護論方法論 II
(1単位 30時間)

- 日常生活を支える看護技術演習
 - 経鼻胃チューブの挿入(演習)
 - 膀胱留置カテーテルの挿入(演習)
- 在宅看護の展開と訪問看護演習
 - 在宅看護の展開
 - 在宅看護過程
 - 訪問看護の実践(演習)

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
在宅看護論総論Ⅱ	1	30	2年 前後期	クラス別	柴田 ひとみ 実務経験あり(看護師)

科目目的

1. 在宅ケアシステムにおけるケアマネジメントの役割や展開について学ぶ。
2. 在宅で療養する対象及びその介護者を支援する看護の展開を理解し、在宅看護の訪問技術を学ぶ。

科目目標

1. 在宅看護に必要な知識・技術を理解する。
2. 在宅ケアにおけるケアマネジメントや関係機関・関係職種間の連携を理解できる。
3. 在宅看護の展開までのプロセスを理解する。

授業進度と内容

時間	単 元	学 習 内 容	学 習 方 法
10	訪問看護サービスの 仕組みと提供	1. 訪問看護ステーションの開設基準 2. 訪問看護サービス開始までの流れ 3. 訪問看護サービスの展開 4. 訪問看護サービスの質保証 5. 訪問看護サービスの管理・運営	講 義
2	在宅看護における安全 と危機管理	1. 日常生活における安全管理 2. 在宅療養を支える災害対策	講 義
18	在宅ケアのケアマネジ メントと関係機関・関 係職種間の連携	1. 在宅ケアとケアマネジメント 2. 在宅ケアにおける関連機関・関連職種との連 携・協働 3. 地域包括ケアシステムと在宅ケア 4. 事例検討 1) 訪問看護における在宅ケアとケアマネジメント 2) 訪問看護計画	講 義 GW
1	単位修得認定試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版
ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版

参考文献 : 資料配布、その都度紹介します。

学生のみなさんへ : 在宅看護に必要な他職種との連携と、訪問看護について具体的に学びます。また、訪問看護での留意点や配慮についても学習するため、復習を十分行って下さい。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
在宅看護論方法論Ⅰ	1	30	2年前期	クラス別	小宮山政枝(看護師)(技術) 三宅由佳(看護師) (症状・状態別看護・看護技術)

科目目的

在宅で療養する対象者およびその介護者を支援する日常生活援助技術と医療技術について学ぶ。

科目目標

1. 在宅療養を支援するために必要な知識・技術について理解できる。
2. 在宅療養者の対象疾患とその援助について理解できる。
3. 在宅看護で行われる医療処置の種類、援助方法について理解できる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4	在宅療養生活を支える基本的な技術 (小宮山)	1. コミュニケーション 2. フィジカルアセスメント 3. 環境整備 4. 生活リハビリテーション 5. 感染予防 6. ターミナルケア	講義
6	日常生活を支える看護技術 (小宮山)	1. 食生活 2. 呼吸 3. 排泄 4. 睡眠 5. 清潔と更衣 6. 肢位の保持と移動	講義
10	在宅療養者の症状・状態別看護 (三宅)	1. 小児在宅療養者 2. 認知症のある高齢在宅療養者 3. 精神疾患のある在宅療養者 4. 難病がある在宅療養者 5. 在宅ターミナルケア(家族へのグリーフケア含む)	講義 DVD
10	療養を支える看護技術(医療ケア) (三宅)	1. 薬物療法(インスリン自己注射も含む) 2. がん化学療法・放射線療法 (外来通院中の在宅療養者に対する援助) 3. 酸素療法 4. 人工呼吸療法 5. 中心静脈栄養法 6. 褥瘡管理 7. 疼痛管理	講義 DVD
1	単位修得認定試験		

評価方法：筆記試験

教科書：ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版
ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版

参考文献：資料配布、その都度紹介します。

学生のみなさんへ：在宅看護を支える看護技術の方法を学びます。事前学習を行った上で授業に臨み、授業後は復習を十分行って下さい。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
在宅看護論方法論Ⅱ	1	30	2年 後期	クラス別	小宮山 政枝(看護師)

科目目的

在宅での看護展開方法と医療技術を伴う看護の必要性を理解し、安全性や経済性を考慮した看護技術を習得する。

科目目標

1. 在宅で行われる医療処置を実践できる。
2. 紙上事例をもとに在宅看護を展開する方法を理解する。
3. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
10 (講義2 ・演習8)	日常生活を支える 看護技術演習	1. 食の援助(経管栄養) 1) 食のアセスメントと援助 2. 排泄の援助(膀胱留置カテーテル) 1) 排泄のアセスメントと援助	講義 DVD
		1. 経鼻胃チューブの挿入演習 2. 膀胱留置カテーテルの挿入演習	学内演習
20	在宅看護の展開	1. 在宅看護の展開(疾患:大腸がん) 1) 在宅看護の展開の視点 2) 在宅看護過程の特徴 2. 在宅看護過程 1) 情報収集とアセスメント 2) 目標・計画 3. 訪問看護の実践(ストーマ管理を含む) 1) 事例を用いた実践 2) 実践の評価	講義 GW 演習 (ロールプレイ)
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版
 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版
 看護がみえる② メディックメディア

参考文献 : その都度紹介します

看護の 統合と実践

看護の統合と実践 (4単位 105時間)

看護の統合と実践

看護管理
(1単位30単位)

- 看護管理の概要
- 看護ケアのマネージメント
- 看護職のキャリアマネージメント
- 看護サービスマネージメント
- マネージメントに必要な理論
- 看護を取り巻く諸制度

安全教育
(1単位15時間)

- 医療看護におけるリスクマネージメント
- 看護職の責任と法的責任
- 看護・医療事故予防と看護実践
- 演習

災害看護
(1単位15時間)

- 災害に関する基礎知識
- 災害医療と災害看護
- 災害特有の疾患
- 災害時の被災者・援助者の心理
- 災害関連死
- 講義・演習
 - 災害各期における看護活動
 - 災害現場での応急処置・運搬法

看護技術統合実践
(1単位30時間)

- 演習オリエンテーション
- 看護の展開GW(紙面事例1・2・3)
GW(プレゼンテーション)
- プレゼンテーションの実施(講義・実技)

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
看護管理	1	30	3年前・後期	クラス別 合同	根本 香 実務経験あり(看護師)

科目目的

看護管理に必要な基礎知識と方法を学ぶ。

科目目標

1. 看護管理の概要について理解できる。
2. 看護ケアのマネジメントについて理解できる。
3. 看護職のキャリア形成とマネジメントについて理解できる。
4. 組織としてのマネジメントについて理解できる
5. マネジメントに必要な基礎的な理論を理解する。
6. 看護職を取り巻く法律と制度について理解できる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
6	看護管理の概要	1. 看護管理とは 2. 看護におけるマネジメント 3. 「看護覚書」における管理とは	講義 演習
6	看護ケアのマネジメント	1. 看護を提供する看護ケアのマネジメント 2. 患者の権利の尊重 3. 安全管理 4. チーム医療と連携 5. 日常業務のマネジメント ・クリティカルパス・情報の活用	講義
2	看護職のキャリアマネジメント	1. 看護職のキャリア形成 2. タイムマネジメント 3. ストレスマネジメント	講義
6	看護サービスのマネジメント	1. 組織としての看護サービスのマネジメント 2. 看護サービス提供のしくみ 3. 人材のマネジメント 4. 施設・設備環境、物品、情報のマネジメント 5. 組織におけるリスクマネジメント	講義
6	マネジメントに必要な理論	1. マネジメントプロセスとサイクル 2. 組織とマネジメント 3. リーダーシップとマネジメント 4. 組織の調整と組織文化 5. コミュニケーション 6. 動機づけ等	講義
4	看護を取り巻く諸制度	1. 看護の定義と専門職性 2. 保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律と制度 3. 看護職の教育制度 4. 看護政策と制度	講義
1	単位修得認定試験		

評価方法：筆記試験

教科書：「統合分野 看護管理 看護の統合と実践 I」医学書院

参考文献：「看護覚え書」・必要時、資料を配布します。

学生のみなさんへ：積極的な参加をお願いします。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
安全教育	1	15	3年 後期	クラス別	吉田 尚子 実務経験あり(看護師)

科目目的

医療現場の様々な危険を、看護技術や業務との関連で認識し、間違いや不適切行為が、患者にどれほど重大な結果をもたらすのかを理解する。

科目目標

1. 医療看護におけるリスクマネジメントについて理解する。
2. 看護職の責任と法的責任について理解する。
3. 看護・医療事故予防と看護実践について理解する。

授業進捗と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4	医療看護における リスクマネジメント	1. 医療事故とは 2. 医療事故を取り巻く状況の変化 3. リスクマネジメント 4. 人間の注意の特性 5. ヒューマンエラー 6. 組織の事故防止の体制の重要性 1) インシデント・アクシデントレポート 2) 医療における危険要因 3) 自己モニタリング 7. 事故の引き起こしやすい看護師の思考と行動	講義 事件事例の分析
2	看護職の責任と 法的責任	1. 保助看法による業務範囲 2. 医師業務との関係 3. 注意義務・法的責任 4. ヒヤリ・ハット体験の分析と共有化 5. 学生としての法的責任	講義 事件事例の分析 (褥瘡裁判事例)
5	看護・医療事故予防と 看護実践	1. 病院内の医療安全 2. 診療の補助業務に伴う事故防止 3. 診療上の世話に伴う事故防止 1) 危険の情報収集 2) 危険因子の査定 3) 危険の予測 4) 危険を回避した看護実践 5) 看護実践の評価	講義
4	演習	1. 目的・目標 2. 演習・試験項目 3. 演習方法 4. 事例の説明 5. 評価方法 6. 評価視点	GW KYT演習
1	単位修得認定試験		

評価方法 : 出席状況、筆記試験及び演習レポートで評価します。

教科書 : 看護の統合と実践[2]医療安全 医学書院

参考文献 : 必要時、資料を配布します。

学生のみなさんへ : 日常の実習で遭遇するまた、引き起こしやすい事件事例を皆さんとディスカッションしながら進めます。積極的な参加をしてください。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
災害看護	1	15	3年 後期	クラス別	島津世子(看護師) 苫小牧王子病院

科目目的

災害が暮らしと密着に関係しながら、人の生命や生活に影響を及ぼすことを理解する。また、災害時における看護の役割を果たすために必要な知識と看護活動について学ぶ。

科目目標

1. 災害及び災害看護に関する基礎知識を理解する。
2. 災害発生時の社会の仕組みと対応について理解する。
3. 災害が人々の生命に及ぼす影響を理解する。
4. 災害時に看護が果たす役割、災害各期における看護支援活動を理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	災害に関する基礎知識	1. 災害の定義 2. 災害の種類と被害の特徴 3. 災害発生時の社会の仕組みと対応	講義
2	災害医療と災害看護	1. 災害サイクルと災害保健医療 2. 災害医療 1) 災害医療災害医療と救急医療の違い 2) 災害医療の体系的アプローチ 3) トリアージ 4) 支援体制と医療体制 3. 災害看護 1) 定義 2) 倫理的概念	講義 DVD
4	災害時特有の疾患	発生機序と病的状態および対応 1) 圧挫症候群 2) 四肢外傷 3) 熱傷 4) 深部静脈血栓症・肺動脈血栓塞栓症 5) 感染症(飛沫・消化器・接触性)	講義 DVD
4	災害時の被災者・援助者の心理 災害関連死	1. 被災者と援助者の心理過程 2. ストレス反応・心的外傷後ストレス反応 3. 心のトリアージ 4. 支援とストレス軽減法 5. 災害関連死とは	講義
4	災害看護の実際	1. 災害看護の基本的考え方と看護の役割 2. わが国の災害医療体制 3. 災害関係諸機関との連携 4. 災害各期における看護活動 5. 保健衛生管理 6. 災害現場での応急処置・運搬法	講義 演習 苫小牧王子病院 DMATチーム

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 看護の統合と実践【3】災害看護学・国際看護学

医学書院

参考文献 : 必要時、資料を配布

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師
看護技術統合実践	1	30	3年 後期	クラス別	吉野 悦子 実務経験あり(看護師)

科目目的

紙面事例に応じた看護実践ができる

グループメンバー全員による参加型実践とする

科目目標

1. 3事例の紙面事例の情報をアセスメントでき、看護問題を挙げるができる
2. 上記事例の中、1事例に対して看護計画立案できる
3. 看護計画に基づいた看護(安全、安楽、自立を促す援助)が実践できる
4. 他のメンバーに対して、紙面事例の看護過程の展開(実施を含め)を講義形式でプレゼンテーションし、質疑に答える
5. プレゼンを見学した紙面事例に対して看護過程の展開をレポートし提出する(個人ワーク)

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	オリエンテーション	1. 目的、目標 2. 展開 3. 方法 4. 評価 5. グループメンバー発表	全体講義
6	看護の展開 (紙面事例1)	1. 1) 疾患の理解 2) 情報のアセスメント 2. 1) 看護計画の立案 3. 1) 実技練習 2) 看護計画の修正	グループワーク グループ別指導 実技練習
6	看護の展開 (紙面事例2)	1. 1) 疾患の理解 2) 情報のアセスメント 2. 1) 看護計画の立案 3. 1) 実技練習 2) 看護計画の修正	グループワーク グループ別指導 実技練習
6	看護の展開 (紙面事例3)	1. 1) 疾患の理解 2) 情報のアセスメント 2. 1) 看護計画の立案 3. 1) 実技練習 2) 看護計画の修正	グループワーク グループ別指導 実技練習
6	看護の展開 (プレゼン担当事例)	1. プレゼンテーションする事例の決定 2. プレゼンテーション準備 1) 看護計画の修正 2) 実技練習 3) プレゼン資料等の作成	グループワーク グループ別指導 実技練習
4	プレゼンテーション の実施と見学	1. プレゼンテーションの実施 2. 他に事例のプレゼンテーションの見学	プレゼンテーション

評価方法 : グループ評価・・中間評価 30点(紙面事例1~3)、プレゼンテーション 50点
個人評価・・・・レポート 20点(2例の見学事例)

教科書 : 各看護学で学習した看護技術の教科書全般

参考文献 : 必要時、資料を配布

専門分野 I

臨地実習

専門分野Ⅱ

臨地実習

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
成人看護学実習 I a	2	90	2年 後期	千葉 祐子 実務経験あり(看護師)

科目目的

健康障害を持つ成人期の特徴を理解し、あらゆる健康レベルにある対象者とその家族に必要な看護を実践できる能力を養う。

科目目標

1. 成人期にある対象者を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。
2. 成人期にある対象者の発達段階、発達課題を理解できる。
3. 成人期にある対象者の健康障害について理解できる。
3. 成人期にある対象者の健康障害の改善・回復に必要な援助について理解し実践できる。
4. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を学び、他職種と協働の必要性を考えることができる。
5. 看護者としての姿勢、態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学習内容	学習方法
1. 成人期の身体的・精神的・社会的特徴 2. 成人期の発達段階の特徴、発達課題をふまえた対象者の理解 3. 対象者が患った疾病とその治療、検査と看護 4. 対象者におこなわれている看護援助の目的、方法、留意点 5. 基本的な看護援助の適応と工夫 6. 対象者におこなった看護援助の評価と修正 7. よい人間関係を築くためのコミュニケーション 8. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度 9. 事実に基づいた簡潔・明瞭・正確な記録と報告 10. 他職種の専門性の理解と連携の必要性の理解	病棟実習
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を認識し、それらを解決するための方法	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
成人看護学実習 I b	2	90	2年 後期	千葉 祐子 実務経験あり(看護師)

科目目的

健康障害を持つ成人期の特徴を理解し、あらゆる健康レベルにある対象者とその家族に必要な看護を実践できる能力を養う。

科目目標

1. 成人期にある対象者を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。
2. 健康障害をもつ対象者に必要な看護を計画・実施・評価できる。
3. 成人期の特徴を踏まえ、経過別、治療・処置別、症状別看護を実践できる。
4. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を学び、他職種と協働の必要性を考えることができる。
5. 看護者としての姿勢、態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学習内容	学習方法
1. 成人期の身体的・精神的・社会的特徴 2. 成人期の発達段階の特徴をふまえた対象者の理解 3. V. ヘンダーソンの看護理論に基づいたアセスメント 4. 対象者に必要な看護援助の具体化 5. 基本的な看護援助の適応と工夫 6. 実施した看護の評価と修正 7. よい人間関係を築くためのコミュニケーション 8. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度 9. 事実に基づいた簡潔・明瞭・正確な記録と報告	病棟実習
1. 慢性期・回復期の疾病の経過と特徴 2. 慢性期・回復期の特徴に合わせた援助の実施と評価・修正 3. 他職種の専門性の理解と連携の必要性の理解	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を認識し、それらを解決するための方法	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
成人看護学実習Ⅱ	2	90	2年 後期	千葉 祐子 実務経験あり(看護師)

科目目的

健康障害を持つ成人各期の特徴を理解し、あらゆる健康レベルにある対象者とその家族に必要な看護を実践できる能力を養う。

科目目標

1. 成人期にある対象者を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。
2. 健康障害をもつ対象者とその家族に必要な看護を計画・実施・評価できる。
3. 成人期の特徴を踏まえ、経過別・治療・処置別、症状別看護を実践できる。
4. 各経過別にある対象者の特徴を理解し、生命の維持、苦痛の緩和、回復向けの援助を学ぶ。
5. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を学び、他職種との協働の必要性が理解できる。
6. 看護者としての姿勢、態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学習内容	学習方法
1. 成人期の身体的・精神的・社会的特徴 2. 成人期の発達段階の特徴をふまえた対象者の理解 3. V. ヘンダーソンの看護理論に基づいたアセスメント 4. 対象者に必要な看護援助の具体化 5. 基本的な看護援助の適応と工夫 6. 実施した看護の評価と修正 7. よい人間関係を築くためのコミュニケーション 8. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度 9. 事実に基づいた簡潔・明瞭・正確な記録と報告	病棟実習
1. 対象者の疾病の特徴や処置・治療の目的 2. 各経過別の特徴に合わせた援助の実施と評価・修正 3. 他職種の専門性の理解と連携の必要性の理解	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を認識し、それらを解決するための方法	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
老年看護学実習 I	2	90	3年 前期	中村 園美 実務経験あり(看護師)

科目目的

老年期にある対象者の特徴を理解し、安全・安楽な療養環境を整えるための援助を実践できる基礎的能力を養う。

科目目標

1. 老年期にある対象者の特徴を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。
2. 加齢変化や健康障害をもつ対象者に必要な看護を立案し、実施・評価することができる。
3. 老年期にある対象者の特徴を理解し、必要な援助について安全・安楽を基本に実施することができる。
4. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を学び、多職種と協働の必要性を理解できる。
5. 高齢者の地域における療養の場を知り、望む生活を支える看護師や他職種の役割が理解できる。
6. 対象の援助を実践するための基礎的な知識・技術の向上に努める姿勢をもつことができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の変化の理解 2. 老年期の発達段階の特徴をふまえた対象者の全体像把握 3. 対象者の生活行動上の課題に着目したアセスメント 4. 家族を含めたアセスメント 5. 対象者のもてる力を引き出す看護援助の具体化・実施 6. 対象者の安全・安楽に配慮した看護援助の工夫 7. 実施した看護の評価と修正 8. 高齢者の特徴や健康障害に応じたコミュニケーションの工夫 9. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度 10. 事実に基づいた簡潔・明瞭・正確な記録と報告 11. 高齢者の地域療養の仕組みと機能の理解 12. 高齢者の生活を支える職種の種類とその役割の理解 13. 地域で療養する高齢者への看護師の役割	病棟実習
1. 対象者の疾病の特徴や処置・治療の目的の理解 2. 多職種の専門性の理解と連携の必要性の理解 3. 高齢者の社会参加の実際	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
老年看護学実習Ⅱ	2	90	3年 前期	中村 園美 実務経験あり(看護師)

科目目的

老年期の特徴を理解し、高齢者の生命と人格を尊重する態度を養い、保健・医療・福祉の連携を理解し、対象者とその家族がよりよい生活を送るための援助を実践できる能力を養う。

科目目標

1. 老年期の特徴を踏まえ、経過別、治療・処置別、症状別の看護を実践できる。
2. 各経過別にある対象者の特徴を理解し、可能な限りの自立に向けた看護を安全・安楽に考慮し実践できる。
3. 対象者の意思を尊重する態度を養い、必要な援助を考えることができる。
4. 主体的に学習に臨み、自己の知識・技術の向上に努める姿勢をもつことができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の変化の統合的理解 2. 老年期の発達段階の特徴をふまえた対象者の理解 3. V. ヘンダーソンの看護理論に基づいたアセスメント 3. 加齢変化・健康障害が及ぼす生活への影響（課題）の明確化 4. 対象者のもてる力に着目した目標設定 5. 対象者の可能な限りの自立に向けた看護援助の具体化・実施 6. 対象者の安全・安楽に配慮した看護援助の工夫 7. 実施した看護の評価と修正 8. 高齢者の特徴や健康障害に応じたコミュニケーションの工夫 9. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度 10. 事実に基づいた簡潔・明瞭・正確な記録と報告	病棟実習
1. 対象者の疾病の特徴や処置・治療の目的 2. 各経過別の特徴に合わせた援助の実施と評価・修正 3. 他職種の専門性の理解と連携の必要性の理解	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
小児看護学実習	2	90	3年 前期	花井未帆 実務経験あり(看護師)

科目目的

小児の特徴と発達段階を理解し、健康障害を持つ小児及びその家族に応じた看護を実践できる能力を養う

科目目標

1. 健康な小児の発達段階に応じた日常生活の実際を理解することができる。
2. 健康障害や入院が小児と家族に及ぼす影響を理解することができる。
3. 健康障害をもった小児と家族に必要な看護を立案、実施、評価することができる。
4. 小児各期の特徴を踏まえた経過別、治療・処置別、症状別看護を実践できる。
5. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を学び、他職種と協働することができる。
6. 看護者としての姿勢、態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
1. 乳幼児の身体的・精神的・社会的な成長・発達特徴 2. 遊びの重要性と安全な遊びの実際 3. 乳幼児の安全と健康管理 4. 健康障害を持つ小児の成長・発達の観察とアセスメント 5. 小児の健康障害が生活や家族に及ぼす影響 6. 対象者に必要な看護援助の具体化 7. 基本的な看護援助の適応と工夫 8. 実施した看護の評価と修正 9. 小児の成長発達や健康障害に応じたコミュニケーションの工夫 10. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度	病棟実習 外来実習 保育園実習
1. 発達に応じた保育のあり方 2. 各経過別の特徴に合わせた援助の実施と評価・修正 3. 保育士の役割と保育園の機能と役割	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
母性看護学実習	2	90	3年 前期	島 津世子 実務経験あり (看護師/助産師)

科目目的

母性及び新生児の生理的変化を理解し、妊娠・分娩・産褥期の母性とその家族である新生児及び父性がより健康に過ごせるための援助を学ぶ。

科目目標

1. 正常な妊娠経過を理解し、妊娠各期に必要な保健指導が理解できる。また妊娠中の異常な状態について理解できる。
2. 正常な分娩経過を理解し、分娩各期に必要な援助を考えることができる。また分娩時の異常について理解できる。
3. 正常な産褥経過を理解し、個々に応じた適切な援助ができる。また産褥時の異常について理解できる。
4. 新生児の生理的な特徴を理解し、母体外生活へ適応するための援助ができる。また、新生児の異常について理解できる。
5. 妊産褥婦を支える家族の心理を理解し、家族の果たす役割について考えることができる。
6. 看護者として母親の母性意識を高めることへの役割を理解できる。
7. 母性を取り巻く地域の医療、保健、福祉の機関との関係について理解ができる。
8. 看護者としての姿勢・態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
1. 妊娠経過に応じた身体的・精神的・社会的変化 2. 妊娠各期に必要な保健指導とその実際 3. 妊娠各期に起こりやすい異常 4. 正常な分娩経過と分娩時の異常 5. 正常な産褥経過と産褥時の異常 6. 個々に応じた適切な援助 7. 新生児の特徴と異常 8. 新生児への日常生活の援助 9. 実施した看護の評価と修正 10. 家族とのコミュニケーションと役割の理解 11. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度	病院実習 助産院実習
1. 母親の母性意識を高めることへの役割 2. 母性を取り巻く地域の医療、保健、福祉の機関との関係	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
精神看護学実習	2	90	3年 前期	千葉 弘恵 実務経験あり(看護師)

科目目的

メンタルヘル스에 障害を抱える対象者の特徴と生活者としての側面を理解し、地域で生活し続けるための援助を考える。

科目目標

1. メンタルヘル스에 障害を抱え入院している対象者を理解する。
2. 対象者の生活とセルフケア向上の方法を理解し実践できる。
3. 対象者が地域で生活し続けるためのセルフケア能力とその援助を学び、必要な知識と社会資源を考えることができる。
4. 保健・医療・福祉チームの専門性を知り、看護の役割として何が必要なのか考えることができる。
5. 看護者としての姿勢、態度を身につけ自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
1. 対象者の身体的・精神的・社会的特徴 2. 対象者のコミュニケーション能力や日常生活度行動の課題 3. 精神障害をもつ対象者に必要な看護の立案・実施・評価・修正 4. 看護者の態度・行動が対象者に及ぼす影響 5. 薬物治療・特殊治療・検査が効果的に行われるための看護	病棟実習 就労継続支援施設実習
1. 病棟における安全管理の特殊性 2. 医療チームの役割と相互連携 3. 地域における支援施設の役割	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

統合分野

臨地実習

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
在宅看護論実習	2	90	3年 前期	小宮山 政枝 実務経験あり(看護師)

科目目的

地域で療養する人々とその家族の課題を生活の課題として理解し、その人々が在宅で健康の維持、増進がはかれるよう援助できる能力を養う。

科目目標

1. 地域で療養している人々とその家族の療養上の課題を理解できる。
2. 地域で療養している人々が在宅で健康の維持増進を図り、在宅療養を継続するための看護の方法が理解できる。
3. 地域で生活する人々の抱える健康上の課題に関わる様々な職種の機能、役割を理解し、看護のあり方を理解できる。
4. 保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割を学び、他職種と協働することの必要性を理解できる。
5. 看護者としての姿勢、態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
【訪問看護実習】 1. 対象者と家族の身体的・精神的・社会的特徴 2. 生活上の課題の把握と看護技術の提供方法の実際 3. 対象者に必要な看護の立案・実施・評価・修正 4. 看護者の態度・行動が対象者に及ぼす影響 5. 医療施設内看護と在宅看護の違い 【通所リハ実習】 1. 利用者の生活史・生活環境 2. 生活支援のあり方	訪問看護実習 通所リハ実習
1. 通所リハの役割と機能 2. 生活を支える職種の役割と相互連携	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員
看護統合実習	2	90	3年 後期	吉野 悦子 実務経験あり(看護師)

科目目的

医療チームにおける看護師の役割を理解し、専門職者として研鑽し続ける基本能力を修得する。

科目目標

1. 対象者の個別性・状況に応じて、優先度を考慮した看護実践ができる。
2. 病院組織における看護管理の実際を理解できる。
3. 外来看護の機能と役割、及び救急看護の実際を学ぶ。
4. 看護の専門性を自覚し、看護師としての心構えができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
1. 複数の対象者に対する優先度を考えた看護 2. 対象者に必要な看護の立案・実施・評価・修正 3. 病棟における看護管理の実際 4. 外来看護の機能と役割と救急看護の実際 5. 卒業時の技術到達目標に基づいた技術演習	複数受持ち実習 看護師同行実習 看護管理実習 救急看護実習 先輩看護師インタビュー
1. 看護の専門性と役割 2. 自己の看護観	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実際 3. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

複数教員が担当する科目の配点表

・単位認定は学則第11条において必要事項を定める

・同一科目で複数の講師の場合、合計で100点満点とし、1回の単位修得認定試験で実施する。

	科目	講師名	総時間数	時間数	配点表	学年	
基礎分野	物理学	森山 隆則	30	30	100	1	
	論理学	林寺 正俊	30	30	100	2	
	日本語表現	小杉 直美	15	15	100	1	
	英語 I	鳴海 恭子	30	30	100	1	
	英語 II	鳴海 恭子	30	30	100	2	
	情報科学	平間 嘉	30	30	100	2	
	心理学	鈴木 珠世	30	30	100	1	
	人間関係論	鈴木 珠世	30	30	100	1	
	宗教哲学	谷川 靖郎	30	30	100	1	
	倫理学	阿部 秀男	30	30	100	1	
	生活科学	小野寺 典子	30	30	100	1	
	社会学	鄭 斗鎬	30	30	100	1	
	教育学	杉浦 勉	30	30	100	3	
専門基礎分野	解剖生理学 I	渡辺 潤	15	15	100	1	
	解剖生理学 II	井上 貴一郎	30	30	100	1	
	解剖生理学 III	東城 庸介	30	30	100	1	
	解剖生理学 IV	東城 庸介	30	30	100	1	
	解剖生理学実践	中村園美・吉野悦子	30	30	100	2	
	生化学	今川 敏明	30	30	100	1	
	臨床栄養学	嶋田 祐子	15	15	100	1	
	病理学	森山 隆則	15	15	100	1	
	臨床薬理学 I	宇野 健一	30	30	100	1	
	臨床薬理学 II	宇野 健一	30	30	100	2	
	微生物学	澤田 幸治	30	30	100	1	
	病態学 I	運	田崎 悌史	30	10	30	1
		循	加藤 法喜		10	30	
		呼	五十嵐 毅		6	25	
		血	石立 尚路		4	15	
	病態学 II	消	吉田 秀明	30	12	40	1
		肺	猪又 崇志		4	15	
		内	猪又 崇志		4	15	
		腎	河田 哲也		10	30	
	病態学 III	外	鎌田 理	30	6	30	2
		女	金上 宣夫		10	35	
		救	学外講師		4	—	
		放	鈴木 祐介		10	35	
病態学 IV	眼	加藤 雅史	30	6	20	2	
	耳	藤原 美秋		4	15		
	歯	千徳 敏克		4	15		
	皮	伊藤 理恵		6	20		
	脳	伊藤 和則		4	10		
	脳	石崎 努		6	20		

	科目	講師名	総時間数	時間数	配点表	学年	
専門基礎分野	保健医療論	丸山 淳士	30	14	50	1	
		日下 勝博		16	50		
	社会福祉 I	澤 伊三男	15	15	100	2	
	社会福祉 II	澤 伊三男	15	15	100	2	
	関係法規 I	小野田 充宏	15	15	100	2	
	関係法規 II	小野田 充宏	15	15	100	2	
	公衆衛生学	都築 俊文	15	15	100	1	
専門分野 I	看護学概論 I	斉藤 恭子	30	30	100	1	
	看護学概論 II	田中 恵美子	30	30	100	1	
	共通基本技術	技術等 朝倉 あつ子	30	14	50	1	
		感染等 斉藤 恭子		16	50		
	日常生活行動援助技術	工藤美恵子	30	30	100	1	
	フィジカルアセスメント技術	中村 恵子	30	30	100	1	
	診療に伴う援助技術	学内教員	30	30	100	1	
	看護過程	斉藤 恭子	30	30	100	1	
	日常生活行動援助技術実践	工藤・斉藤	30	30	100	1	
	診療に伴う援助技術実践	斉藤恭子	30	30	100	1	
	臨床看護総論	高橋 久江	30	30	100	1	
	看護研究		斉藤恭子	30	12	20	2
		文献	福井堅一		4	—	2
		演習	学内教員		14	80	2
専門分野 II	成人看護学総論 I	千葉 祐子	15	15	100	1	
	成人看護学総論 II	千葉 祐子	30	30	100	1	
	成人看護学方法論 I	循 阿部 裕矢	30	6	25	2	
		消 佐藤 恵美		8	25		
		運 竹内 明美		8	25		
		脳 千葉 祐子		8	25		
	成人看護学方法論 II	慢性 千葉 祐子	30	22	70	2	
		末期 上岡 晃		8	30		
	成人看護学方法論 III	周術 千葉 祐子	30	20	70	2	
		侵襲 渡辺 静香		10	30		
	特別講義	ME 真下 泰	4	—	—	2	
	成人看護学方法論 IV	千葉 祐子	30	12	80	2	
	老年看護学総論 I	乗次 美弥子	15	15	100	1	
	老年看護学総論 II	動向 沼田 環	30	12	40	1	
		演習 乗次 美弥子		18	60		
	老年看護学方法論 I	若林 崇雄	15	4	30	2	
山下いづみ		11		70			
老年看護学方法論 II	緑川 弥生	30	12	35	2		
	活動 中村 園美		6				
	過程 中村 園美		12	65			
老年看護学方法論 III	身体 小原 菜穂	30	8	25	2		
	認知 疋田 健		8	25			
	コミュ 朝倉 あつ子		6	25			
	エンド 上岡 晃		8	25			

		科 目	講 師 名	総時間数	時間数	配点表	学年	
	専 門 分 野 Ⅱ	小児看護学総論Ⅰ	岡田 千佐子	15	15	100	1	
		小児看護学総論Ⅱ	岡田 千佐子	30	30	100	2	
		小児看護学方法論Ⅰ	佐藤 俊哉	30	30	100	2	
		小児看護学方法論Ⅱ	佐藤 真紀子	30	22	70	2	
			花井 未帆		8	30		
		母性看護学総論Ⅰ	小林 和子	15	15	100	1	
		母性看護学総論Ⅱ	齊藤 麻木	30	30	100	2	
		母性看護学方法論Ⅰ	齊藤 麻木	30	22	100	2	
			演習 齊藤 島 小林 工藤		8	—		
		母性看護学方法論Ⅱ	リプロ — 異常	30	6	20	2	
			小林 和子		14	50		
			過程 小林 和子		10	30		
		精神看護学総論Ⅰ	千葉 弘恵	15	15	100	1	
		精神看護学総論Ⅱ	栗内 崇	30	30	100	2	
		精神看護学方法論Ⅰ	清水祐輔他	30	16	50	2	
			鈴木 ゆき		14	50		
		精神看護学方法論Ⅱ	齋藤 伸	30	10	30	2	
			千葉 弘恵		20	70		
		統 合 分 野	在宅看護論総論Ⅰ	小宮山 政枝	15	15	100	1
			在宅看護論総論Ⅱ	柴田 ひとみ	30	30	100	2
	在宅看護論方法論Ⅰ		技術 小宮山 政枝	30	10	30	2	
			展開 三宅 由佳		20	70		
	在宅看護論方法論Ⅱ		小宮山 政枝	30	30	100	2	
	看護管理		根本 香	30	30	30	3	
	安全教育		吉田 尚子	15	15	100	3	
			災害看護	島 津世子	15	13	100	3
			王子病院 DMAT	2		—		
	看護技術統合実践		吉野 悦子	30	30	100	3	